

はじめに

本報告書は、「京都府立大学 学生による授業評価実施要領」（平成 18 年 3 月 29 日策定、平成 20 年 4 月 1 日改訂）に基づき、平成 21 年度後期授業科目を対象に実施された「学生による授業評価」の結果をまとめたものである。具体的には、各学科・専攻等による「学科・専攻等報告書」に、教務部委員会 FD 部会による「学部別まとめ」、および「全学まとめ」を付け加えたものである。

今回の評価結果については、本報告書とは別に、各教員による個別報告書が作成されている。本報告書の大半を占める「学科・専攻等報告書」は、個別報告書の検討を踏まえ、各学科・専攻等が作成したものである。一方、個別報告書については、(1a)「評価内容の全般的な傾向」(1b)「肯定的評価の概略」(1c)「批判的評価の概略」および(2)「学生による授業評価を踏まえての今後の授業改善の具体策」の項目を、学内閲覧用の本学ホームページに掲載することになっている。

今回の「学生による授業評価」実施に当たっては、質問項目を一部変更したほか、新たに学生の所属学科を記入させる欄を設けた。また、調査用紙の回収の際には、教員が学生の前で調査用紙を封筒に入れ、その場で封をすることとした。

なお、現在本学では新カリキュラムによる授業と旧カリキュラムによる授業が混在している。報告書の作成に当たっては、各学科・専攻・学部の判断により、新カリキュラムの授業と旧カリキュラムの授業を一体に扱った場合と別々に扱った場合がある。

学生による授業評価に対する全学報告書（全学まとめ）

全体的に、今回の「学生による授業評価」の結果は、これまで同様の傾向を示している。授業への評価は一般に良好であり、「自分にとって興味深く十分に受講した価値があった」という問いへの回答も、総じて高い。(講義科目平均 4.0、実験・演習等科目平均 4.3、外国語科目平均 3.9)

一方、従来から指摘されてきた学生の受け身的な態度も同様であった。「予習、復習や関連する自習勉強は大いにした」という問いへの回答が、講義科目平均 2.7、実験・演習等科目平均 3.6、外国語科目平均 3.4、「質問や発言などは積極的にした」への回答が、講義科目平均 2.4、実験・演習等科目平均 3.2、外国語科目平均 2.8 という結果であった。

このような傾向を受けて、現在、学科レベルにおいて学生の積極的な態度を

引き出すべくさまざまな努力が行われている。

たとえば公共政策学科では、グループ分けなど学生の積極性を引き出す努力をしたことへの高評価が見られたとの報告があった。また、質問紙の利用はすでに一定の有効性が認められている対策であり、今回も質問紙の活用および丁寧に質問に答える実践を徹底した結果、評価が大幅に改善された例が報告されている（福祉社会学科 教育・心理学講座）。一方、農学生命科学科からは、一部の授業において web サイトを開設し質問受付のフォームを準備したとの報告があった。

この問題に関しては、技術的な改善策にとどまらず、学生の興味の有無が予復習につながる傾向が強いという指摘もあり（生命分子化学科）、授業内容そのものも検討の対象となってきた。

この点と関連して、今回も「わかりやすさ」と「大学教育にふさわしいレベル」との葛藤が報告されている。また、事前に履修していることが望ましい授業をとっているかどうかで当該授業の理解度に差が生じ、それが授業評価に反映しているとの指摘もあった（生命分子化学科）。

カリキュラムの検討については、新体制が発足してまだ2年という状況であり、実際にカリキュラムの改変を行った学科はなかった。ただし、歴史学科からは今後授業数を絞り込んでいくという方向が提示されるとともに、演習科目の配当年次についても新たに検討しているとの報告があった。

今回の学科からの報告で新たに指摘があったのは、授業規模の問題である。日本・中国文学科からは、演習科目における受講生の過剰をどのように解消していくかという問題意識が示された。同じく、教養教育センター外国語小委員会からは30～40名規模の授業では教員学生ともに満足いく結果が出ているのに対し、50名を超えるクラスでは種々の問題の指摘があるとの報告があった。適切な授業規模の実現は教員による授業改善以前の問題であり、早急な改善が望まれる。

文学部

1 授業評価の内容の全体的な傾向

前期同様、新旧学科・専攻混在の授業評価となったが、概ね良好な結果であった。特に「教員の説明・指導」「受講価値」「目的達成」などに肯定的評価が目立ち、学生の満足度も高いようである。学科再編に伴い新設された科目に関しても評価の向上が見られ、教員による授業改善の努力は着実に効果を示しつつ

つあると言ってよい。

しかし、その半面、「学生の自己評価」は十分とは言えず、授業に取り組む学生の積極性の弱さも指摘され、更なる授業改善の工夫を模索する教員も少なくない。また、一部の演習科目においては、受講生の過剰による教育効果への懸念も聞かれる。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

「質問への対応」や「理解度の考慮」に関して、改善の必要性や工夫の余地を指摘する声が多いようである。「質問への対応」については、質問用紙を活用することが定着化しつつあり、一定の教育効果も報告されているが、用紙の利用には限界があり、授業に対する積極的な参加を促す本質的な工夫が必要であるとの意見も見られた。

「理解度の考慮」については、学生の予備知識に差があることに留意して内容を一層検討したいとの考えが示される一方で、わかりやすさの追求が授業内容の劣化を招くことへの懸念も表明され、わからないことを自覚させることによって学生に復習の必要性を認識させるといった改善策が重要であるとの指摘もある。また、小テストを積極的に導入することで改善を図る試みも紹介されたが、試験が多すぎるといった反応が学生から寄せられたとのことであった。

「質問への対応」と「理解度の考慮」は互いに連関する一面もあり、今後も質問用紙等も含めた技術的な試行錯誤を経ながらも、学生の良質な理解度を高める方策を具体的に実施し、その結果や経験を教員相互で共有できるようにしたい。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

新学科体制発足後 2 年が経過し、来年度から専門科目が本格化する状況にあつて、受講生の増減や動向に注視しながら、カリキュラムの見直しを検討すべき時期にさしかかっているとの認識が共通する。

個別事項としては、受講生の過剰問題、キャップ制の可能性やその是非、新たな科目の設置などが検討状況としては報告されている。

最後に、学生による授業評価の実施方法等に関し、そのアンケート用紙回収の方法について、教員と学生との信頼関係を損ないかねない今回のような方法は遺憾であり、今後は学科に一任することも検討すべきではないかとの意見書が 1 学科から提出されていることを付言しておきたい。

文学部 学科・専攻等報告書

I 日本・中国文学科

授業評価の対象となった授業科目名

- ：国文学研究Ⅱ
- ：国文学演習Ⅰ
- ：国文学演習Ⅱ
- ：日本文学概論Ⅱ
- ：日本語学概論Ⅱ
- ：中国文学演習Ⅰ
- ：漢文学基礎演習Ⅱ
- ：京都文化学基礎演習Ⅱ
- ：中国文学基礎演習Ⅱ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

講義の丁寧さやわかりやすさ、進度の適切さ、シラバスとの適合性、資料の準備など授業に対する熱意、演習における指導の適切さなど、ほとんどの点で、肯定的な評価が大半を占めている。一部黒板の文字の丁寧さや口調の明晰さに対する要望が見られた。

なお、学生の評価には直接現れていないが、一部の演習科目において、受講生の人数過剰によって指導の不徹底が生じる恐れのあることが教員からも指摘されている。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

本学科では概ね良好な評価がなされており、教員と学生の興味関心や問題意識が合致して、どの授業科目においてもその意義を十分に理解した上で受講し、積極的な取り組みによって効果を上げていることが認められる。強いて改善を図るとすれば、演習科目における人数の過剰をどのように解消するかであろうが、受講希望者を強制的に排除することはできない以上、教員と学生とで十分に意思疎通を図って少しでも公平な形で展開するように努力していくしかないものと考えられる。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

新しい学科体制になって二年目であり、次年度から3・4年次の専門科目が

本格的に始まることになる。課題となっている演習科目の受講生も、科目増によって一定の分散化が図られるものと予想されるが、なお怠りなく受講状況を注視していく必要がある。

II 欧米言語文化学科 及び 文学科 西洋文学専攻

授業評価の対象となった授業科目名

：欧米言語文化基礎演習 I

：欧米から見た京都

：欧米言語文化史 I b

：欧米言語文化概論 II

：アメリカ文学研究IV

：英語史

：英語表現総合演習

：英語音声学演習 b

：ドイツ文学演習 III B

：欧米言語文化概論 III b

：フランス文学概論 b

1 授業評価の内容の全体的な傾向

今回は対象となったいずれの科目においても、「学生による授業評価」各項目の平均が 4.0 以上、「自分にとって興味深く十分に受講した価値があった」への評価も 4.0 以上であり、非常に高い評価を得ることができた。この点から、本学科・専攻の教育は十分充実しており、学生の満足度も高いものと思われる。

特記事項としては、2年連続で評価を受けた科目が二つあった（欧米言語文化基礎演習 I・欧米言語文化概論 II）。両科目とも新設学科の 1 回生配当であり、昨年度から開講されたものである。前回はどちらも「学生による授業評価」各項目の平均が 4.0 に届かなかったが、今年は昨年以上の評価を得ることができた。このことは担当者の努力の結果であるとともに、授業の改善には経験の蓄積が重要であることを示しているといえよう。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

複数の授業において、開始・終了時間についての指摘があった。それらについて、授業内容の一層の精練をはかるほか、質問用紙を書くための時間を十分にとる、開始前のパソコン等の設定を手際よくするといった対策が提案された。

また、一部科目において、授業内容がわかりにくいとの意見が見られた。そ

れに対し担当者からは、学生の予備知識に差があることに留意して、内容を一層検討していきたいとの考えが示された。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

カリキュラムについては学科会議等において日頃から議論しており、その結果として、22年度から一部科目について変更したところである。今回、特に変更すべき点は認められなかったが、今後とも議論を継続していきたい。

なお、カリキュラムに関連して話題となったのが、授業によっては学期途中で授業を放棄する学生が一定数見られることであった。この点については、内容に十分興味を持ってないとか、課題が全体として多すぎるなどの理由が考えられるとの意見が出された。一方、学科としてカバーする領域が非常に広く、そのため学生の興味も多様になっている以上、1学年全員の興味を引き留めるような授業は難しいとの指摘もあった。また、キャップ制の可能性も指摘されたが、とりあえず受講してみて途中で放棄するのは学生として当然のことであり、それを制限する必要は特にないのではないかとの意見も出された。

III 歴史学科

授業評価の対象となった授業科目名：

- ：歴史地理学
- ：宗教史概論Ⅱ
- ：文化遺産学史料演習Ⅳ
- ：日本文化史概論
- ：日本文化史史料演習Ⅳ
- ：基礎演習
- ：考古学研究方法
- ：西洋史史料演習Ⅳ
- ：東洋史概論
- ：東洋史史料講読Ⅵ
- ：西洋美術史Ⅱ
- ：日本古文書史料演習Ⅱ
- ：日本地域史研究Ⅱ
- ：東洋史学研究Ⅳ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

すべての授業を通しておおむね良好な評価であり、とくに授業の目標達成に

ついて高い評価を得ている。ただし、プリントや視覚教材を用いない史料講読の授業では、その点の評価が低く表れたり、シラバスの内容から離れて、より重要な内容を伝えた授業で、シラバスに関する評価が下がるなど、授業の特性によっては、評価が低く表れる傾向がある。むしろ、授業の手法に関わる個別の項目よりも、全体的な理解度や達成を重視することが必要であろう。また、学生の積極性が弱い点も本学の特徴であり、質問に関する項目は全体を通してやや低くなっている。質問用紙を利用したり、小テストを実施した授業では、この項目の評価が改善されるが、逆に試験が多すぎるといった反応が学生から出ている。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

質問の機会を増やすことをあげた授業が多かった。ただし、用紙を利用した方法では限界があり、授業に対する積極的な参加を促していくことも必要であろう。また理解力を測りながら進めることも重視されている。ただし、わかりやすさを追求するあまり、授業の内容を劣化させる懸念も示されている。わからないことを自覚させて、学生に復習の必要性を認識してもらおうといったことも重要な改善策であろう。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

歴史学科発足後 3 年を経過し、カリキュラムを見直す時期になっている。授業数がやや過多であるので、授業の精選をおこない、内容の充実が必要であると認識している。その一方で、1 回生の基礎演習と 3 回生のそれぞれの演習とを繋ぐ工夫として、2 回生にも演習科目を設置する必要性が議論されている。学生の意見を踏まえつつ、歴史学科のカリキュラム内容をよりよいものにできるよう、今後も検討を進めていきたい。

IV 国際文化学科

授業評価の対象となった授業科目名

：英語文化圏研究

：宗教学Ⅱ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

概ね、平均あるいは良好であるが、対象学生数が 10 人以下の講義科目では平均を下回ったものもあった。具体的には、開講表と内容の一致度について、また、配付資料や板書の内容には高い評価が寄せられた反面、例年同様質問の

ついでに項目は評価が低いものもあった。学生の自己評価も質問項目を中心に低かった。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

学生の理解の程度に、より一層の配慮を行いつつ、授業進行の仕方や質問の引き出し方、補助資料の教示などさらに改善を模索する。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

22年度で最終の4回生が卒業するのでカリキュラムは検討しない。

公共政策学部・福祉社会学部

1. 授業評価の内容の全体的傾向

- 全体として、おおむね良好な結果であった。福祉社会学科では、教員によるばらつきが見られたという報告がなされた。
- 質問紙の導入、グループ分けなど、講義に対する工夫には肯定的な反応が多い。

2. 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

- 黒板の使い方の改善、講義の最初に当日の講義に関するオリエンテーション、講義受講者と教室の規模の適正化などが提案されている。

3. 「学生による授業評価」実施上の問題点・改善点について

以下の意見が寄せられた。いずれも適切な指摘であるが、授業評価の質問項目はこれまでの議論を経て安定状況にあると判断されるので大幅な修正を行う必要はないと考える。

- 個別報告書の「回答総数／受講生(実質)」について、「実質」の意味が不明確ではないか。
- 演習のような受講生がきわめて少数の授業について、こうした方式の調査の対象とするのは不適切ではないか。
- 学生の授業評価項目3の⑦について「(質問用紙などの活用を含む)」は削除すべきではないか。質問を促す方法は、各教員が工夫すべきことで、特定の手法を誘導するのは望ましくない。
- 評価方法がマンネリ化している感が否めないため、教員同士が授業を見学するなどアンケートに加えて刺激的な授業改善が望まれる。

- 無記名でなく記名のアンケートを望む。
- 「授業形態・授業規模別集計表」の数値が、従来のように個人票のなかにも印刷されていた方がよい、との意見があった。

公共政策学部・福祉社会学部 学科・講座別報告書

I 公共政策学科

授業評価の対象となった授業科目名

- ：地域社会論
- ：公共政策概論Ⅱ
- ：公共政策入門Ⅱ
- ：民法総則Ⅱ
- ：専門演習Ⅰ
- ：担保物権法
- ：入門演習
- ：財政学Ⅱ
- ：行政法Ⅱ
- ：ミクロ経済学Ⅱ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

ほとんどの評価項目で平均を上回った教員が多かった。

とくに、「説明・指導は明快」「声が大きく、口調は明瞭」「授業に熱意や意気込みが感じられる」の項目で高評価を得た教員が多かった。

グループ分けするなど、学生の積極性を引き出す努力をしたことへの高評価もみられた。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

黒板の活用に関する批判的評価が多いので、丁寧な板書を心がけることとしたい。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム改革全体の検討状況

民法関連科目について改善をした。

II 福祉社会学部 福祉・社会学講座

授業評価の対象となった授業科目名

- : 社会病理学Ⅱ
- : 社会学概論Ⅱ
- : 社会福祉史
- : 老人福祉論
- : 社会福祉援助技術論Ⅱ
- : 保健医療福祉論
- : 社会福祉実習指導
- : 公的扶助論

1 授業評価の内容の全体的な傾向

今回は、教員によって授業評価のバラつきがみられた。

評価の高い教員の特徴は、「説明・授業の明快さ」「熱意や意気込み」「授業進度の適切さ」などにあらわれていた。また、評価が低い教員の特徴は、「授業進度や理解力」の評価にあらわれていた。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

基本的には学生のモチベーションが向上するような工夫を考えていきたい。

具体的には、①質問・感想用紙の活用、②質問・解説の時間の工夫、③資料の工夫、④自習を促すような努力、⑤グループ体験の導入、⑥授業に興味をもてるようにテーマやその日の授業の流れのオリエンテーション、などのアイデアが出された。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム改革全体の検討状況

社会福祉士法の改正による新カリキュラム（現 2 回生）と精神保健福祉士カリキュラム（現 3 回生）が学年進行中であるため、現在は様子を見ているところである。

Ⅲ 福祉社会学科 教育・心理学講座

授業評価の対象となった授業科目名

- : 知覚心理学Ⅱ
- : 障害児(者)教育論
- : 社会科・地歴科教育法
- : 社会心理学Ⅱ
- : 教育学概論Ⅱ

: 生涯学習論Ⅱ

: 教育課程論Ⅰ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

(1)学生による自己評価の平均が、全体として全学平均より高かった科目が2科目、ほぼ同じないしやや低いものが4科目であった。これは従来とほぼ同じ結果であり、受講生が多く、しかも必修科目(特に資格取得必修科目)について、評定値が相対的に低くなる傾向がある。

また全体として1(c)①「予習、復習や関連する自習勉強は大いにした」が低い得点となっている。この点での改善が、評価の高い講義も含めて引き続き共通の課題となっている。

なお、受講登録数と実際の受講生数とがかなり異なっている講義がある。教室の配置等をめぐって問題となることがあり、原因の解明と改善が必要であろう。

(2)学生による授業評価の平均については、全学平均より高いものが3科目、ほぼ同程度のものが2科目、やや低いものが1科目という結果であった。

今回注目すべきは、この2年間で急速に評価が改善された講義が見られたことである。すなわち2年前には、全学平均以下の水準で全体として評価が低かったものが、昨年度、今年度と大幅に改善され、今年度は4.37に到達したことである。当初の低評価は、担当教員が本学に着任して直後であり、本学の環境に慣れないことが最大の原因であった。昨年度は、質問紙の活用と質問に丁寧に答える実践を徹底した結果、評価が飛躍的に向上し、さらに今年度は総ての指標で4以上の評価を得るに至った。

また今回、従来は平均に比べて良好であった1科目が、ほぼ平均のレベルに低下し、加えて従来にはなかった、教育内容に関わる否定的な自由記述も散見された。この原因は、受講生の増大と教室の不備に由来する、講義の弛緩にある。すなわち当該講義は、履修登録者数、調査回答数ともに前回調査時(2年前)より2倍以上に拡大し、受講生の関心・意欲・態度および基礎知識が相当変化していた。他方で、この授業を必要以上に広い講義室で行わざるを得なかったことから、集中力を欠いた講義となってしまった。状況の変化に機敏に対応した授業方法を工夫すべきであった。

評価が相対的に低かった1科目については、講義内容の時間配分に問題があったと考えられる。この講義は、学生による発表が重要な位置を占めるが、そのために必要な時間と教員の講義それ自体に必要な時間との配分に問題があった。つまりより大胆に発表の時間を設け、必要な講義内容については予復習の

時間でおぎなえるように工夫すべきであったと考えられる。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

学部・学科の組織改変に伴って、講義の位置づけ・内容は従来と同一であっても、受講生の数および興味・関心には相当の変化が見られる。状況を的確に判断して、授業改善の努力を行う必要がある。

個々の講義ごと、改善が求められている内容は多様であるが、半期ごとにこの「学生による意見調査」をもとに相互に点検・討論することは有意義である。

上述の、発表の時間と講義の時間の配分の問題については、できるだけ発表時間を確保すること、講義時間の不足については予復習のための独自の資料を準備し、それらの学習結果について独自に点検を取るよう改善することを確認した。

なお、学外での福祉実習が通常の講義と重なる場合については、事前連絡の徹底、講義内容の工夫など、必要な対処を行うことが求められる。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

次年度は、学部・学科の改組から3年目を迎える。完成年度に向けて、学科カリキュラムの再検討を開始したい。

なお、今回、教職科目担当の非常勤講師から個別報告書が出された。全般にきわめて良好な結果であった。

生命環境学部・人間環境学部・農学部

1 授業評価の内容の全体的な傾向

全般的傾向として、全学平均と比べて同程度かやや良いとする肯定的な評価が多かった。また、昨年度よりも高く評価された報告も多かった。特に、低学年を対象とし、かつ、受講生が多い科目では評価が下がり、高学年を対象とする少人数のクラスでは評価が高くなる傾向があるように見受けられたので、高学年を対象とする少人数クラスの専門的な授業が比較的多い生命環境学部の授業では、全般的に肯定的な評価が多くなったものと思われる。

「板書、声の大きさ」についてはかなり改善されてきているものの、なお、一部に評価が低い科目が残っており、引き続き改善を要する。一方で、プリントの配布や視聴覚教材の利用は高く評価されていたものが多く、この点は改善されつつあるといえよう。

授業の理解度については、全学生に基礎的な知識を教授する講義（必修科目が多い）では、比較的理解度が高い傾向にあるが、一方で、レベル的に物足りなさを感じている学生もおり、授業の専門性等によっては結果が二極化する傾向にあった。専門性が高い講義については、高校における数学、物理、化学、生物等（特に数物系科目）がバックグラウンドになる科目では、「理解困難」といった評価を得る傾向が強く、批判的な評価につながっていた。今後、授業のレベルをどこに設定するか、予備知識をどの時点でどのように教えるのか（あるいは自分で勉強することの必要性を啓発するのか）で学生の評価は大きく変わると思われる。教えるべき内容の範囲にも関わる問題であるが、一定の水準は維持すべきであると考える教員が多かった。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

「質問や発言のしやすさ」や学生の理解度を把握する方法としては、過去の例から「質問票」が有効であったので、そうした取り組み事例についての普及啓発をはかり、授業の改善に結び付けている例が多く見られる。一方で、WEB上での質問について行っている例もあるが、依然普及していないようであるが、学生の意欲との関わりもあり、この方法を発展させるかどうかは今後の課題である。「板書、声の大きさ」については、あらためて教員に周知し改善を促すが、多くの教員がかなり改善しようと努力をしている様子が伺える。

その他、さらに能動的な授業にするために、質問を促す仕掛けを授業で行う、オフィスアワーを周知する、リレー講義等においては担当者間での授業内容の摺り合わせ等を行う、特に数物系科目に関しては教養教育レベルに落としても理解してもらうよう心がける、演習やレポートを活用して考える力をつける授業を心がける等の意見があった。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

特にカリキュラムの改善の必要性は現時点では感じられないため行っていないという学科がほとんどであった。一方で、昨年度に引き続き再検討を行うとしている学科（食保健学科）や、数物系基礎教育の教養教育レベルでの再検討が必要と感じている学科（森林科学科）があった。

生命環境学部 人間環境学部 農学部 学科報告書

I 生命分子化学科

授業評価の対象となった授業科目名

- : 有機化学Ⅱ
- : 化学実験及び同実験法
- : 分析化学
- : 土壌環境学Ⅱ
- : 酵素化学
- : 生命分子化学実験Ⅰ
- : 基礎化学Ⅱ
- : 化学通論Ⅱ
- : 発酵生理学
- : 生命の分子化学
- : 生物化学工学
- : 生命環境物理学

1 授業評価の内容の全体的な傾向

講義科目では、生命分子化学科の学生と他学科の学生では、授業に対する受け止め方が異なるように思われる。当該授業を受講するに当たって、履修している事が望ましい（前段階の）授業を取っているか否かで、当該授業の理解度に差が生じ、それが授業評価に反映されたものと思われる。また総じて説明指導の明快さ、教員の熱意、意気込みが高い評価を受けた。実験系科目は予習の多寡により、単に手を動かしているだけの学生と、理解して実験を進めている学生とが分かれ気味である。また終了時間が遅いという意見もあれば、納得できるまでやり直せてよかったという意見もあった。個々人の興味の有無が如実に評価に反映されたと判断する。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

講義科目においては、基礎学力の向上、充実のために、現行の授業水準を維持し、その上で質問タイムの設定や、より丁寧な説明、板書を行い、より理解しやすい授業を目指す。さらに学生の興味の有無が予復習につながる傾向が強いので、トピックスを入れるなどして刺激的な授業、興味を抱かせる授業に努めたい。実験系科目では、納得できるまでとことんやれるという環境は維持し、更に出来る限り少人数の班分けで実験が行えるよう、設備の充実を含めて取り組んで行く。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

現状で大きなカリキュラムの変更が必要であるとは考えていない。

Ⅱ 農学生命科学科

授業評価の対象となった授業科目名

- : 基礎生物学Ⅱ
- : 作物学各論
- : 生物生産と生命科学
- : 蔬菜園芸学各論
- : 植物病害管理学
- : 植物感染機構学
- : 応用昆虫学
- : 害虫各論
- : 農業経営学、農業経営学総論
- : 農業経営学各論
- : 資源作物学
- : 分子栄養学Ⅰ
- : 分子遺伝学
- : 植物ゲノム情報学
- : 生物生産専門実験
- : 地学実験及び同実験法
- : 理科教育法Ⅲ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

全体的に高い評価もしくは標準的な評価が多い。視覚教材を活用する授業が多く、学生の理解に関連する項目群の評価が比較的良好であった。しかし、「質問に積極的に答えてくれる」の評価の低調な授業が一部でみられた。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

上記の「質問」への改善策として、一部の教員は授業の web サイトを開設し、質問受けのフォームを準備しているが、質問はゼロの状況である。この点については、授業に対する受講生の積極性と関連しており、教員の主体的努力の限界を示唆している。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

今回の授業評価結果からは、全体的検討の必要性は感じられなかった。

Ⅲ 食保健学科

授業評価の対象となった授業科目名

- : ライフステージ栄養学
- : 臨床栄養療法学
- : 生化学
- : 分子生物学
- : 食生活環境論
- : 栄養教育論実習
- : 給食経営管理論
- : 臨床医学概論
- : 臨床栄養学臨地実習 I
- : 保健統計学
- : 臨床栄養管理学

1 授業評価の内容の全体的な傾向

学生の自己評価では、予習・復習などの自己学習が低かったが、それ以外は高い評価であった。出席率が高く、ノートをきちんととっており、真面目な受講態度であった。特に、実験・実習科目では、4.3ポイント以上であり、真剣に実験・実習に取り組んでいた。学生による授業評価では、ほぼすべての授業科目で高い評価であった。興味深い内容であり、受講した価値のある授業であったと回答した学生の割合が高かった。これらのことから、学科の教育が適切に行われていることと評価できる。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

一部の科目において、説明・指導の明快さ、声の大きさ、板書の文字などに改善を要する。小テストの導入や質問表の活用によって、さらに学生の自己学習を高め、授業への理解を深めることができると考えられる。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

平成 22 年度も、昨年度に引続きカリキュラム全体について再検討を行う。

Ⅳ 生命環境学部 環境・情報科学科 及び 人間環境学部 環境情報学科

授業評価の対象となった授業科目名

- : 基礎物理学Ⅱ
- : 計測基礎Ⅱ
- : 環境有機化学Ⅱ
- : 量子物理化学
- : 基礎化学Ⅱ
- : 情報社会論
- : プログラミング演習
- : 基礎数学Ⅱ
- : 環境生物学
- : 基礎生物学Ⅱ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

評価が特に高い科目はあったが、学科全体としては、おおむね平均か、やや平均を下回る評価であった。

評価の高い科目では、特に、教員の指導の明快さ、授業の進度、教材の活用の項目が評価されていた。他に、声の大きさ、板書の丁寧さ、興味深く受講した価値がある、などの項目が評価されていた。

批判的評価としては、授業内容の理解度に関する指摘が多かった。全体評価の高い授業でも同様の指摘が散見されたことから、講義技術の課題というより、専門性が高すぎて内容が理解できないことに起因するものと推測される。これは、これまでの授業評価にも共通する傾向であり、予備知識や必要となる学力が不足している学生が受講していることを前提に工夫をしていく必要がある。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

学生の理解度を捉えるために、昨年同様(1)質問を促す、(2)小テストを活用する、(3)課題を出す、などの工夫を積極的に進める。一方、授業レベルを落とさずに、理解が不十分な学生をどのように指導していくかは難しい課題であり、今後も学科教員間で意見交換を進めながら改善策を探りたい。

V 環境デザイン学科

授業評価の対象となった授業科目名

- : 環境心理行動学
- : 住環境設計演習Ⅵ
- : 建築材料学
- : 論文購読法Ⅰ

: 環境デザイン実習Ⅱ
: 一般構造学
: 環境物理学
: 構造力学Ⅱ
: 環境政策論
: 住生活学
: デザイン史
: ランドスケープデザイン論
: 色彩学
: 建築史Ⅰ
: 服飾文化史
: 建築法規
: アパレル設計及び製作実習
: 建築施工法
: 家庭科教育法Ⅲ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

学生の自己評価では、「質問や発言を積極的にした」「予習，復習や関連する自習勉強」が不十分であった。

学生による授業評価では、総じて、「自分にとって興味深く十分に受講した価値があった」「プリントや視聴覚教材が効果的である」「質問に積極的に答えてくれる」などの評価が高く、授業内容の妥当性や、授業への工夫・熱意が評価された。一方で、授業によっては、「よく理解できる内容」、「教員の説明・指導は明快でポイントが分かりやすい」など、低い評価もあった。

特に、自然科学系の科目は学生により授業内容の理解度が大きく異なり、「理解できる内容」の評価が低い傾向にあり、各学生の数学や物理の基礎知識とも関係していると推察される。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

- ・演習やレポートを活用して、考える力をつける授業にしていきたい。
- ・(リレー講義の場合) 授業の全体構成について、担当者間で確認しておくことが必要である。開講表の授業計画の各担当内容をもう少し詳しく記述しても良いだろう。
- ・熱意が感じられる授業、わかりやすい説明をこころがける。
- ・発言を促す仕掛けを検討したい。
- ・基礎教養の数学・物理も含めて丁寧な説明に心がける。

- ・学生にオフィスアワーを周知し、必要に応じて質問への対応や十分な補足説明を行う。
- ・講義内容を絞るとともに、学生に自主学習を促す方法などを検討したい。
- ・板書の文字等は、時間をかけてでも大きく明瞭に書くように工夫したい。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

現時点では、特に修正等の必要はないと考えている。

学科改組にともない H20 年度からカリキュラムを大きく変更しているため、H23 年度までは現行通りでよいと考える。

VI 森林科学科

授業評価の対象となった授業科目名

- ：森林保護学
- ：科学英語Ⅱ
- ：木材物理学
- ：砂防学Ⅱ
- ：林木成長論
- ：生物統計学
- ：森林植物学実験および同実験法
- ：造林学
- ：森林植物学
- ：バイオマス利用学
- ：造園学及び森林風致論
- ：林業経営計算学

1 授業評価の内容の全体的な傾向

これまでの傾向と大きく変化はなく、概ね良好な評価を得た。今まで行われてきた授業評価を受けて、各教員がそれぞれ改善を行ってきた成果と考えられる。

しかし、これも昨年と同様であるが、一部の評価でやや低いものが継続的に見受けられ、改善の余地が残されている。これには、教員側の努力により改善されると思われる事項（例えば3に記載の評価項目の内、説明の明快さ、声の大きさ、板書の丁寧さ、進度、熱意など）と、教員の努力のみでは解決できない講義内容に関する学生の基礎知識（例えば、物理学、数学など）が大きく関わる事項（例えば、理解度、興味、受講価値など）があり、後者については、

専門講義内容のレベルの維持の問題があり、判断の極めて難しい事項である。

また、2(a) 受講理由として、専門授業には必修のものがあり、学生にとって必修・選択の別が大きな理由の一つではないかと考えられ、必修のため受講していることが、興味、理解等の評価に関わるものと考えられる。

全体的に積極的な質問や発言の項の点数が少なかったことなどからしても、一方的な受け身の授業形態であったことが伺われる。この点は反省すべき点であろう。

評価としては、「授業の進度」や「プリントや視聴覚教材」で評価が高くなったが、「理解できる内容」、「黒板の文字や図」、等で低い結果となった。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

肯定的評価を受けた事項については更なる改善を、批判的評価を受けた事項についてはそれを踏まえた改善策を検討することが各教員から表明された。

- ・説明時により声を大きくし、質問できる機会を増やす。
- ・口調の明瞭さについては、今回新たに指摘された事項であり、素直に受け止め改善したい。
- ・板書を丁寧にする。
- ・講義の最後に、質問の有無を必ず問うように心がけるとともに、質問票配布をも考える。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

講義内容に関係する物理学、数学等の基礎事項を出来るだけ平易に説明するよう努力するが、そのために講義内容のレベルを下げることに成りかねず、大学教育を受けた卒業生が当然身に付けておかなければならない専門知識レベルの低下を招くことが考えられ、判断が極めて難しい問題であり、大学全体で基礎教養科目のカリキュラムを考える時期にきているのかもしれない。

教養教育センター

1 授業評価の内容の全体的な傾向

「学生による授業評価」は、質問表の活用による学生の理解度の把握ならびに授業への学生の参加意識の向上、視聴覚機器のより効果的な使用等により、総合教育科目、健康教育科目および教養外国語科目を通じて学生の満足度は高く、概ね良好であった。しかしながら、学生が感じる講義の理解度においては

学生間で差が認められた。この差の理由として、教養教育としては専門的過ぎる内容である、あるいは学生の学力が低い等があげられるが、「学生の自己評価」で、予習・復習や関連する自主勉強が十分に行われていない場合が多いことも一因であろう。

なお、それぞれの科目は大規模授業が多い。特に教養外国語科目では30～40人程度のクラスでは担当教員・学生とも満足度が高いのに対して、50人を超えるクラスでは使用教材の難易度に対する受け止め方の差異、質問等への対応が十分できない傾向にあり、特徴的であった。

さらに、リレー講義に関しては、内容の重複、一貫性の欠如などに課題が残されているようである。

2 学生による授業評価をふまえての授業改善の具体策

授業の多くが大規模授業であるため、講義内での積極的な質問・コメントが少ない現状から、学生の講義内容理解度の把握、コミュニケーションツールとして、質問用紙やミニレポートの活用は有効であり、今後もそれらの質の向上をはかる努力が必要であろう。そもそも大学における講義は、学生自身が予習・復習および関連する自主勉強を行うことで十分な理解を得られるものである。よって、質問用紙やミニレポートを学生が自主勉強を行うためのツールとして活用することも必要であろう。さらに、外国語科目においては、クラスの規模が使用教材の難易度、授業の進め方や進度に大きな影響を及ぼすため、適正規模で授業を行える体制作りが不可欠である。

リレー講義に関しては担当教員間の連携をよりいっそう密にし、科目としての統一性をはかる。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

外国語科目においては、クラス規模適正化のために開講コマ数の増加も視野に入れた改善をはかるべく、受講状況の調査・検討を実施する予定である。

教養教育センター分野別小委員会報告書

I 健康教育小委員会

授業評価の対象となった授業科目名

：スポーツ科学（後期）

: 心の健康

1 授業評価の内容の全体的な傾向

学生の自己評価においては、「質問や発言などは積極的にした」、「予習、復習や関連する自主勉強は大いにした」についての項目が低くかったが、高い出席率とまじめな受講態度がうかがえた。一方、学生による授業評価では、「教員の説明・指導は明快で、ポイントがわかりやすい」「声が大きく、口調が明瞭で聞き取りやすい」「自分にとって興味深く充分受講した価値があった」など評価が高く、受講生は講義内容に高い興味と理解を示すとともに達成感が得られたことが伺えた。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

いずれの科目についても比較的規模の大きい講義であることもあり、講義内での積極的な質問・コメントがないため、引き続き質問紙やミニレポートなどを活用して学生の理解を促す。一方、教室の広さと受講者数のアンバランスを改善するために施設整備についての対策を行う必要がある。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

引き続きカリキュラム全体の再検討を行う。

II 外国語教育小委員会

授業評価の対象となった授業科目名

- : 英語 A (日中・公共・農学・環デ・福祉)
- : 英語 C (公共・福祉・分子)
- : 英語 B (欧米・公共・生命)
- : ドイツ語 IA・IB・IIA・IIB
- : フランス語 IA・IB
- : 中国語 IA (日中・福祉・農学・食保環情環デ)
- : 中国語 IIA (日中)
- : 朝鮮語 IA

1 授業評価の内容の全体的な傾向

教養外国語科目全体を通じて高い評価を受けており、学生の満足度も高く、概ね良好な結果が得られている。特に、英語科目・初修外国語科目のいずれにおいても、視聴覚教材に関する報告がかなりの数に上っており、その有効性を

確認する結果になっている。

その一方で、クラスの規模(受講者数)が影響していると思われる問題点も見られた。30人～40人程度のクラスの場合には、担当教員・受講生ともに満足に行く結果が出ているのに対して、50人を超えるクラスの場合には、例えば、使用教材に対する難易度の受け止め方に大きな差が見られたり、質問への対応が十分に出来ない等の指摘が出てくる傾向が見られたことが特徴的だった。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

使用教材の難易度、授業の進め方や進度の面で、さらにきめ細かい配慮が必要であるとの認識は担当者間で共有されているが、適正な30人規模で実施出来ている英語D(ネイティブ・スピーカー担当のスピーキングの授業)以外の英語科目や、朝鮮語科目のように50人を大幅に上回る場合には現実的に困難な場合があり、適正な規模で授業を行える体制作りを不可欠の課題として取り組んでいくことが確認された。また、50人を超える英語のクラスや初修外国語のクラスの一部で、必修科目であるにもかかわらず出席率が芳しくない場合が見られ、検討を要する問題点として指摘された。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

英語科目の変更を含む新カリキュラムを今年度で一通り実施したことになるが、改変の成果を十分に挙げるには、英語科目に相当数残っている50人を超えるクラスを解消するなど、クラス規模のさらなる適正化が望まれる。担当者から強い要望が出ており早急の対策が必要な朝鮮語科目や、英語B(ライティング)については特に、開講コマ数を増やすことも視野に入れて改善を図って行くことが確認され、差し当っては本年度の受講状況を調査・検討することになっている。

Ⅲ 総合教育小委員会

授業評価の対象となった授業科目名

- ：日本の文学と文化Ⅱ
- ：アジアの歴史と文化
- ：ヨーロッパの歴史と文化
- ：人間と建築
- ：京都の文学Ⅱ
- ：京都の歴史Ⅱ
- ：人権論Ⅱ

: 日本国憲法
: 生活と経済
: 現代社会と心
: 物理学Ⅱ
: 化学Ⅱ
: 生物学Ⅱ
: 数学Ⅱ
: 情報の科学
: 現代の環境問題
: 京都の農林業
: 社会学Ⅱ

1 授業評価の内容の全体的な傾向

「学生による授業評価」は概ね良好ながら、「学生の自己評価」は必ずしも高くないという前期授業評価同様の傾向が今回も見受けられる。授業は着実に改善傾向にあるのに対し、学生の授業に対する姿勢がそれに伴っていない状況、それらの乖離が以前にも増して顕在化してきている。

個別的な事例に関しては、「黒板の文字や図」「質問への対応」「理解力の考慮」「理解できる内容」などに批判的評価がやや集中しているようである。「質問への対応」については、2008年度後期の本報告書において質問票の活用を授業改善の具体策として取り上げて以来、一定の教育効果が見込まれることが報告されてきたが、質問票導入の有無が個別科目の学生評価に反映しているように見受けられる。もちろん、そうした技術的な問題だけで対処すべきものではなからうが、「質問への対応」のみならず、学生の理解度を測る一つのツールとしても定着しつつあるようである。質問票を介した教員との応答に学生は教員の授業への「熱意や意気込み」を感じ、さらに学生自身の授業への参加意識にも好影響を及ぼしているとの感想も見られ、注目したい。

また「理解力の考慮」や「理解できる内容」に関しては、教養教育の授業としては専門すぎる内容であったとの反省が聞かれる半面、学生のレベルが低いとの指摘もある。「学生の自己評価」の低さにも関連し、いわゆる自宅学習、予習・復習問題が前期報告書同様の課題として残されているが、理系科目担当教員からは、文系学生にこそ理系科目を受講してもらいたいとの意見もあった。専門教育の一階梯としてではない教養教育のあり方（カリキュラム）や問題点を考える上で傾聴すべきであろう。

リレー講義に関しては、前期授業評価に見られたような問題点（内容の重複、一貫性の欠如など）に課題が残されているようである。

2 学生による授業評価を踏まえての授業改善の具体策

学生の積極的な勉強への取り組みが前提であり、授業内容の劣化や学生への迎合は厳に慎むべきことではあるが、学生の理解度を測りながら、わかりやすい授業を心がけること、またそれを実践する工夫が求められていることを実感している教員は少なくない。「黒板の文字や図」に対する評価が低い傾向が見られたが、「まず隗より始めよ」といったところであろうか。また、「質問への対応」が「理解力の考慮」や「理解できる内容」と直接連関するかどうかは即断できないが、質問票の活用は教員と学生とのコミュニケーション・ツールとして機能している面も窺え、授業への参加意識等への相乗効果もある程度期待できそうである。

リレー講義に関しては、担当者間の連携を密にして科目としての統一性を計る努力がいっそう求められよう。

3 学生による授業評価を踏まえてのカリキュラム全体の検討状況

受講者の基礎知識や理解力に応じた、いわゆる習熟度別科目の開設の是非や「学生の自己評価」を高める方策などが検討課題となろう。

<参考>

2009年度 後期
授業形態・授業規模別集計表

設 問 内 容		講義科目								全講義科目	
		201人以上	151~200人	101~150人	51~100人	31~50人	11~30人	10人以下	全講義科目		
[学生の自己評価]		6	2	11	26	53	34	3	135		
[学生の自己評価]		3.28	3.57	3.27	3.47	3.44	3.58	3.54	3.41		
1 (a)	あなたはこの授業の受講を決める際、事前に関講表を十分に参照しましたか。	3.79	3.69	3.71	3.81	3.79	3.72	4.33	3.77	全講義科目 設問1(b)の「2」「1」、 設問1(d)の「2」「1」 のどれかに 回答したも のを除く。	
(b)	あなたのこの授業への出席状況をお尋ねします。	4.25	4.55	4.20	4.18	4.16	4.20	3.33	4.21		
(c)	あなたはこの授業にどのような態度で臨みましたか。										
①	予習、復習や関連する自習勉強は大いにした。	2.31	2.87	2.54	2.74	2.84	3.08	2.50	2.70		
②	質問や発言などは積極的にした。	2.09	2.27	2.25	2.50	2.58	2.86	2.50	2.44		
③	私語、居眠り、遅刻などはせず、受講態度はまじめであった。	3.28	3.58	3.16	3.49	3.38	3.61	3.92	3.38		
④	ノートはきちんととった。	3.71	4.17	3.57	3.83	3.71	3.85	4.42	3.75		
(d)	この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。	3.54	3.87	3.49	3.71	3.63	3.74	3.75	3.63		
[学生による授業評価]		3.99	3.78	3.83	3.83	3.94	3.97	4.34	3.90		3.93
2 (b)	この授業の目的はどの程度達成されましたか。	3.82	3.77	3.62	3.79	3.83	3.97	4.00	3.80		3.89
(c)	「開講表」の内容の説明文はこの授業の実際の内容と一致していましたか。	3.98	3.89	3.87	3.92	3.94	3.95	4.33	3.93	3.97	
3	この授業を受講してどのように感じましたか。										
①	教員の説明・指導は明快で、ポイントが分かりやすい。	4.15	3.91	3.85	3.83	3.95	3.98	4.58	3.94	3.97	
②	声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	4.27	4.17	4.02	3.98	4.07	4.08	4.50	4.08	4.10	
③	黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	3.63	3.70	3.73	3.53	3.71	3.65	4.25	3.65	3.67	
④	プリントや視聴覚教材が効果的である。	4.07	3.97	3.97	3.96	4.10	4.11	4.50	4.04	4.06	
⑤	授業の進度は適切であった。	4.08	3.58	3.94	3.94	3.99	4.05	4.33	3.98	3.99	
⑥	学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	3.75	3.38	3.58	3.63	3.79	3.85	4.25	3.70	3.72	
⑦	質問に積極的に答えてくれる。(質問紙などの活用を含む)	3.87	3.61	3.87	3.75	3.93	3.93	4.08	3.86	3.87	
⑧	計画的で筋道だった授業であった。	4.06	3.84	3.94	3.90	3.97	4.01	4.42	3.97	3.98	
⑨	授業に熱意や意気込みが感じられる。	4.21	3.91	3.99	4.01	4.13	4.06	4.17	4.08	4.09	
⑩	授業はよく理解できる内容であった。	4.00	3.58	3.65	3.67	3.80	3.85	4.50	3.78	3.83	
⑪	自分にとって興味深く充分に受講した価値があった。	3.98	3.82	3.76	3.92	4.02	4.08	4.50	3.95	4.01	
[施設・設備・機器などに対する評価]		4.08	4.11	4.00	4.03	3.95	4.03	4.36	4.02		
7	この授業が行われた教室・設備について、教えてください。										
①	教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。	4.15	4.26	4.02	4.24	4.03	4.26	4.55	4.13		
②	教室の温度設定は適切だったか。	3.88	4.00	3.88	3.81	3.67	3.71	4.00	3.79		
③	スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	4.06	4.04	4.03	4.05	4.14	4.16	4.38	4.08		
④	マイク等の音響設備は適切だったか。	4.22	4.14	4.05	4.03	3.96	3.98	4.50	4.08		

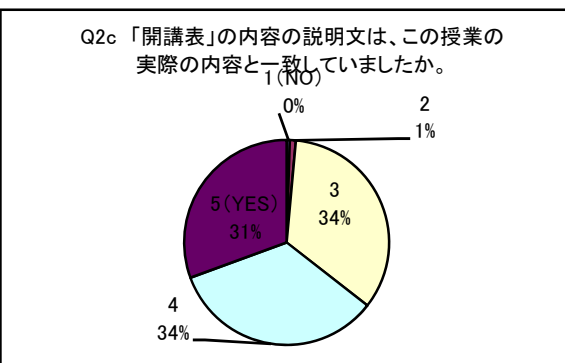
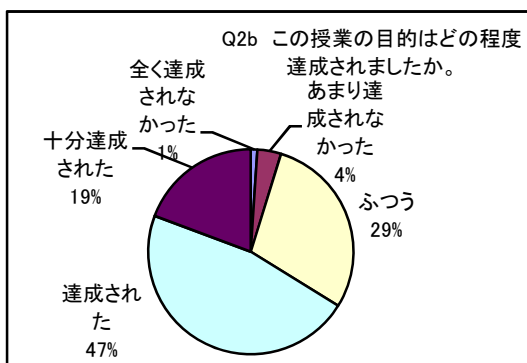
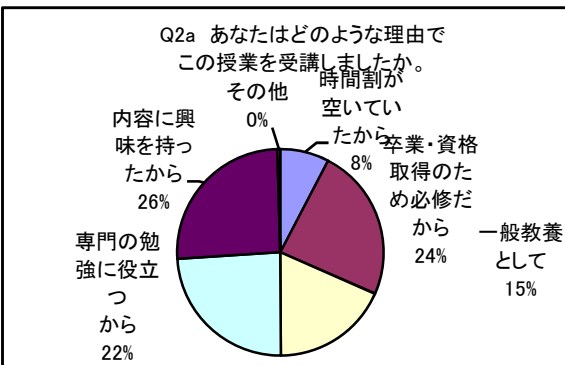
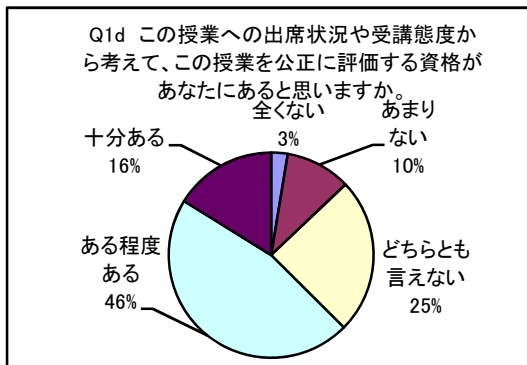
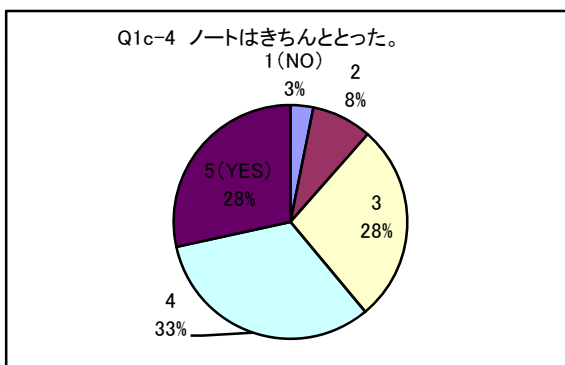
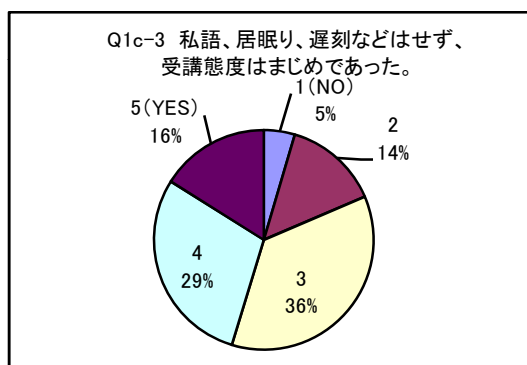
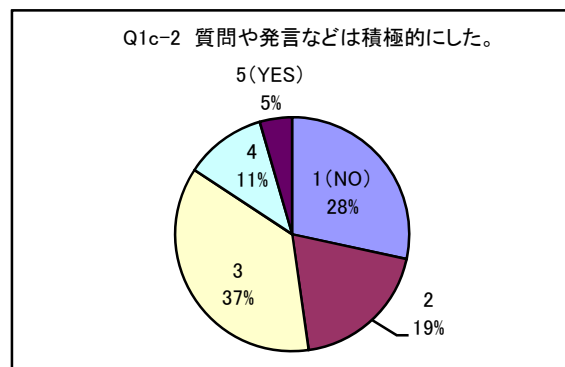
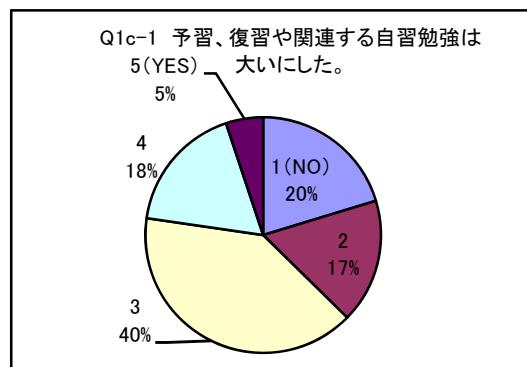
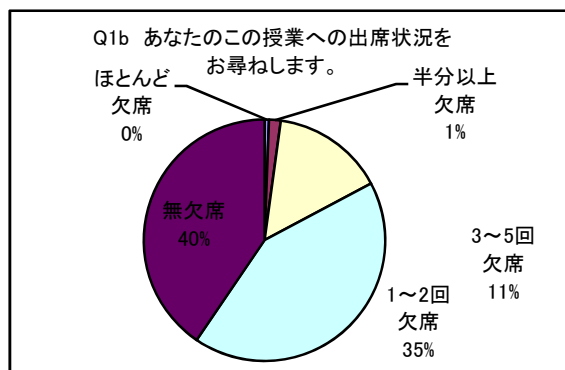
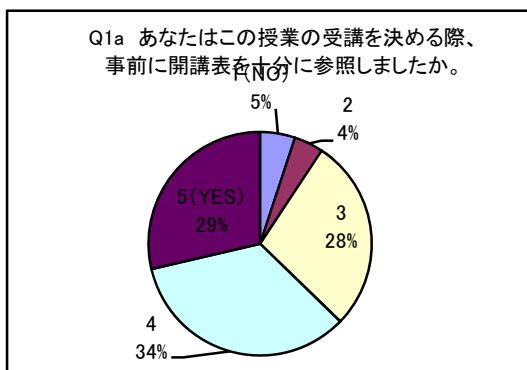
2009年度 後期
授業形態・授業規模別集計表

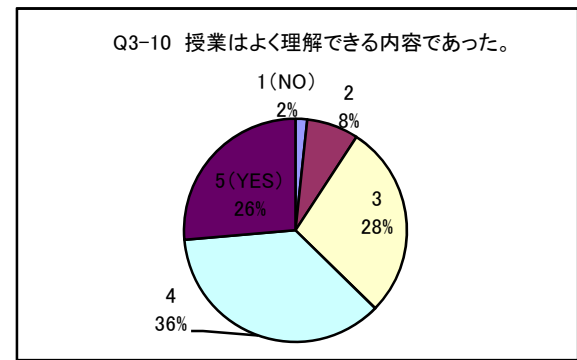
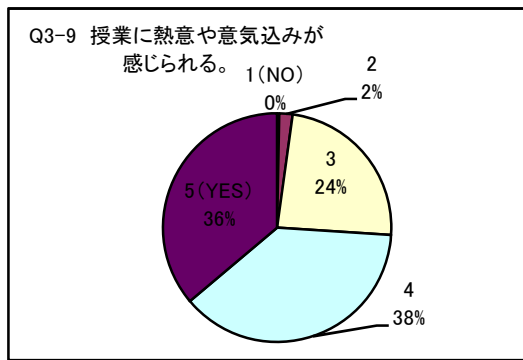
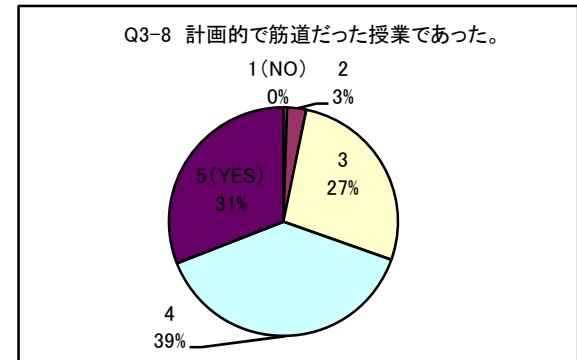
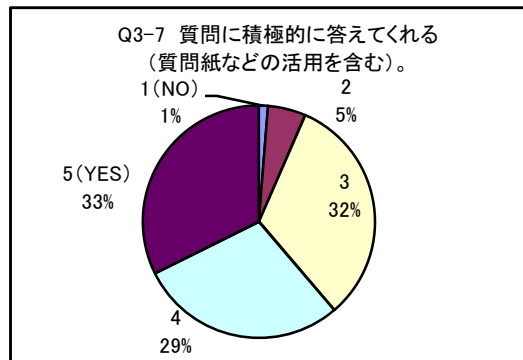
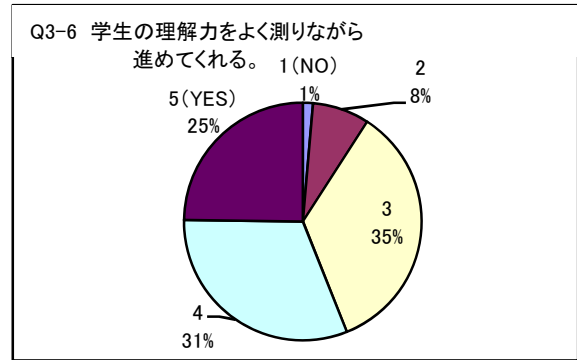
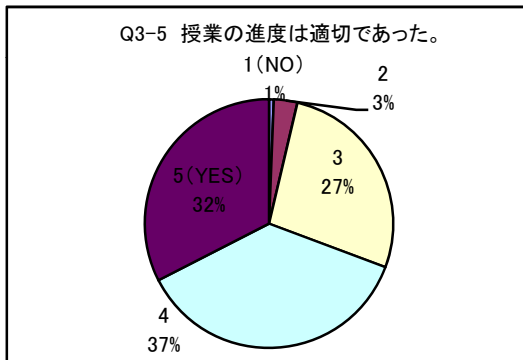
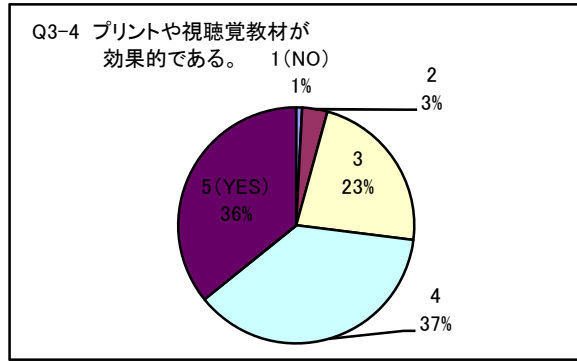
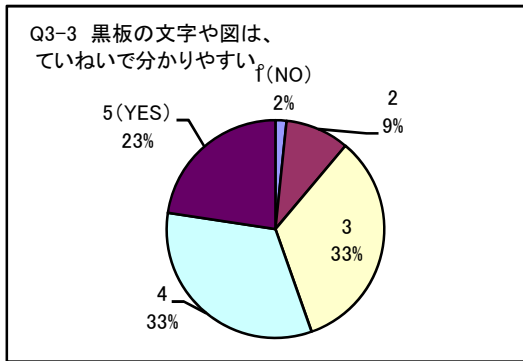
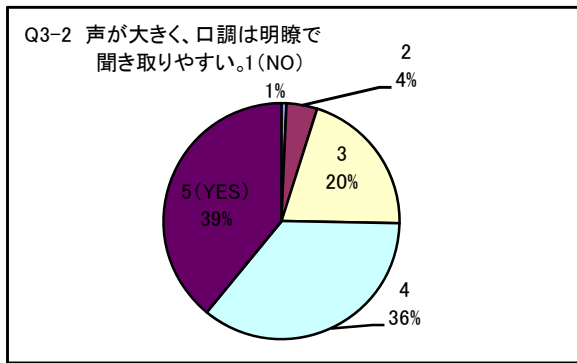
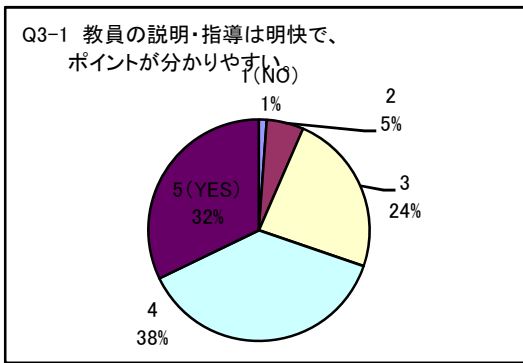
設 問 内 容		実験・実習・演習・講読科目				全実験等科目
		31～50人	11～30人	10人以下	全実験等科目	
		14	16	5	35	
【学生の自己評価】		3.72	3.87	4.13	3.80	
1 (a)	あなたはこの授業の受講を決める際、事前に開講表を十分に参照しましたか。	3.74	4.01	4.03	3.86	全実験等科目 設問1(b)の「2」「1」、設問1(d)の「2」「1」のどれかに回答したものを除く。
(b)	あなたのこの授業への出席状況をお尋ねします。	4.39	4.14	4.31	4.29	
(c)	あなたはこの授業にどのような態度で臨みましたか。					
①	予習、復習や関連する自習勉強は大いにした。	3.41	3.86	4.11	3.62	
②	質問や発言などは積極的にした。	3.01	3.31	3.89	3.17	
③	私語、居眠り、遅刻などはせず、受講態度はまじめであった。	3.77	3.94	4.31	3.87	
④	ノートはきちんととった。	3.76	3.86	3.92	3.80	
(d)	この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。	3.97	3.96	4.31	3.98	
【学生による授業評価】		4.02	4.24	4.39	4.12	4.13
2 (b)	この授業の目的はどの程度達成されましたか。	4.11	4.16	4.28	4.14	4.17
(c)	「開講表」の内容の説明文はこの授業の実際の内容と一致していましたか。	4.04	4.14	4.28	4.09	4.11
3	この授業を受講してどのように感じましたか。					
①	教員の説明・指導は明快で、ポイントが分かりやすい。	4.06	4.43	4.42	4.22	4.22
②	声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	4.11	4.51	4.47	4.28	4.28
③	黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	3.80	4.03	4.23	3.91	3.91
④	プリントや視聴覚教材が効果的である。	4.10	4.16	4.08	4.12	4.13
⑤	授業の進度は適切であった。	4.01	4.13	4.25	4.07	4.07
⑥	学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	3.93	4.23	4.50	4.08	4.08
⑦	議論、討論、質疑応答などの機会が十分に行われた。	3.76	3.96	4.47	3.87	3.87
⑧	教員による事前の準備や段取りは周到適切であった。	4.00	4.25	4.33	4.11	4.12
⑨	グループ分けやその人数は適切であった。	4.02	4.34	4.56	4.17	4.17
⑩	授業に熱意や意気込みが感じられる。	4.09	4.34	4.61	4.21	4.22
⑪	授業はよく理解できる内容であった。	4.06	4.20	4.44	4.13	4.14
⑫	自分にとって興味深く十分に受講した価値があった。	4.20	4.44	4.47	4.31	4.32
【施設・設備・機器などに対する評価】		4.08	4.05	4.16	4.07	
7	この授業が行われた教室・設備について、教えてください。					
①	教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。	4.30	3.97	4.23	4.17	
②	教室の温度設定は適切だったか。	3.82	3.68	4.20	3.79	
③	スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	4.13	4.36	4.28	4.21	
④	マイク等の音響設備は適切だったか。	4.08	4.18	3.91	4.10	

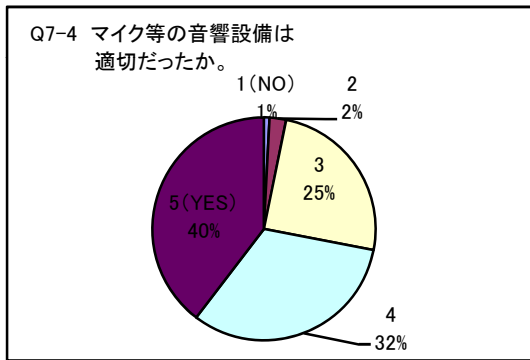
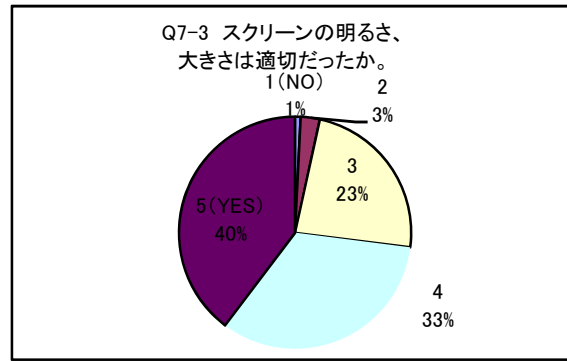
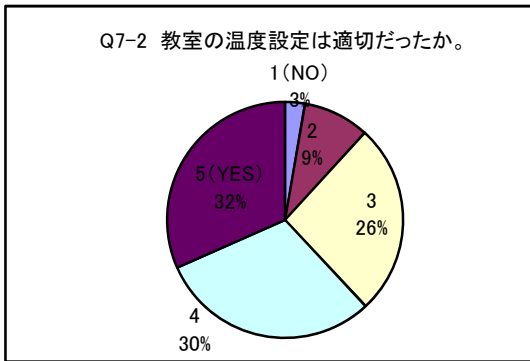
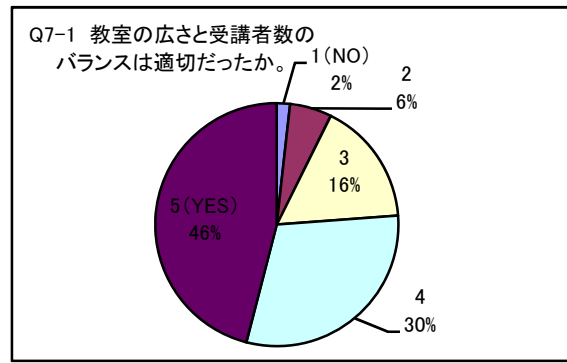
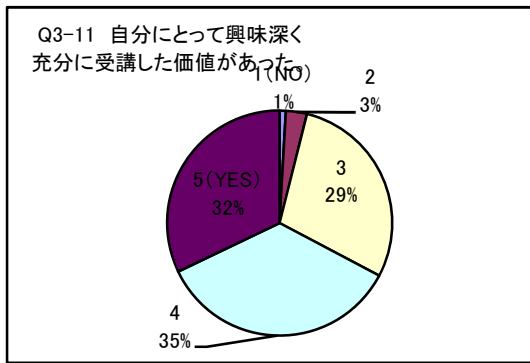
2009年度 後期
授業形態・授業規模別集計表

設 問 内 容		外国語科目				該当科目数
		51~100人	31~50人	11~30人	全外国語科目	
[学生の自己評価]		7	15	12	34	
[学生の自己評価]		3.41	3.55	3.73	3.55	
1 (a)	あなたはこの授業の受講を決める際、事前に開講表を十分に参照しましたか。	3.51	3.56	3.57	3.55	全外国語科目 設問1(b)の「2」「1」、設問1(d)の「2」「1」のどれかに回答したものを除く。
(b)	あなたのこの授業への出席状況をお尋ねします。	3.98	4.10	4.19	4.09	
(c)	あなたはこの授業にどのような態度で臨みましたか。					
①	予習、復習や関連する自習勉強は大いにした。	3.16	3.47	3.50	3.38	
②	質問や発言などは積極的にした。	2.70	2.69	3.30	2.83	
③	私語、居眠り、遅刻などはせず、受講態度はまじめであった。	3.35	3.47	4.06	3.57	
④	ノートはきちんととった。	3.61	3.87	3.57	3.72	
(d)	この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。	3.56	3.71	3.94	3.71	
[学生による授業評価]		3.82	3.99	4.30	4.01	4.04
2 (b)	「開講表」の内容の説明文はこの授業の実際の内容と一致していましたか。	3.79	3.90	4.14	3.92	3.96
3	この授業を受講してどのように感じましたか。					
①	説明は明快で、ポイントが分かりやすい。	3.92	4.18	4.46	4.16	4.20
②	声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	3.97	4.23	4.62	4.24	4.26
③	黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	3.70	3.82	4.15	3.86	3.88
④	プリントや視聴覚教材が効果的である。	3.75	3.75	4.28	3.89	3.93
⑤	授業の進度は適切であった。	3.93	3.95	4.30	4.02	4.04
⑥	学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	3.82	3.97	4.25	3.98	4.02
⑦	質問に積極的に答えてくれる(質問紙などの活用を含む)	3.63	4.06	4.28	3.97	4.01
⑧	使用教材の内容やレベルは適切であった。	3.87	4.00	4.25	4.02	4.04
⑨	授業に熱意や意気込みが感じられる。	3.87	4.12	4.41	4.11	4.13
⑩	授業はよく理解できる内容であった。	3.92	4.03	4.28	4.06	4.10
⑪	語学力が身につけ十分に受講した価値があった。	3.70	3.92	4.14	3.90	3.95
[施設・設備・機器などに対する評価]		3.99	3.88	4.10	3.97	
7	この授業が行われた教室・設備について、教えてください。					
①	教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。	4.26	4.17	4.31	4.23	
②	教室の温度設定は適切だったか。	3.86	3.81	4.11	3.89	
③	スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	3.97	3.82	4.05	3.92	
④	マイク等の音響設備は適切だったか。	3.88	3.73	3.94	3.83	

2009年度後期 学生による授業評価 選択式回答の分布(講義科目計)

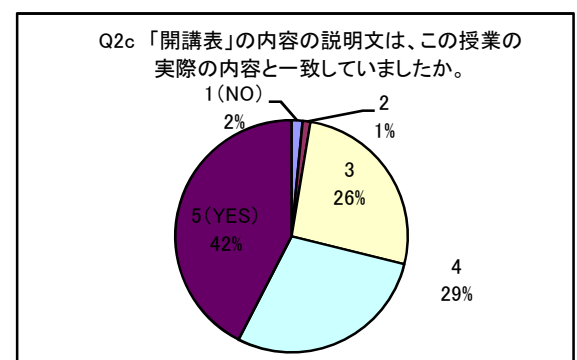
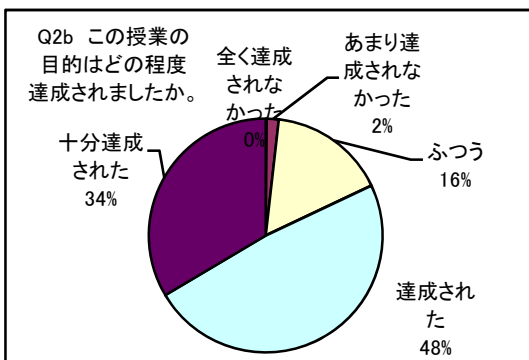
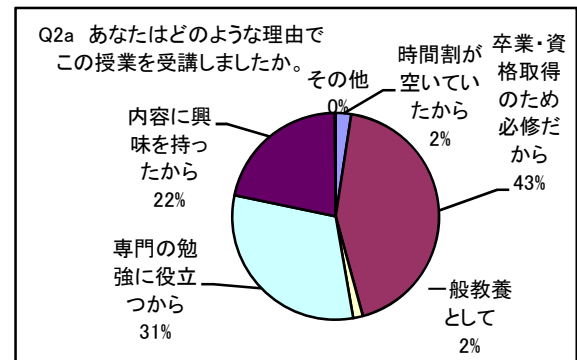
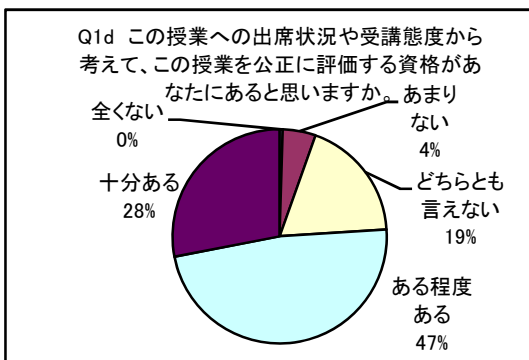
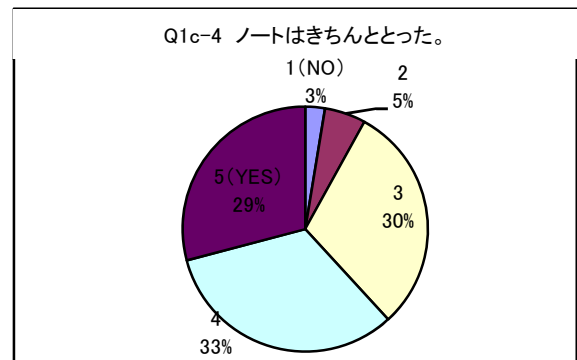
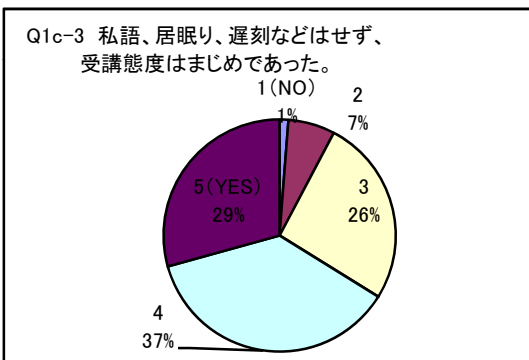
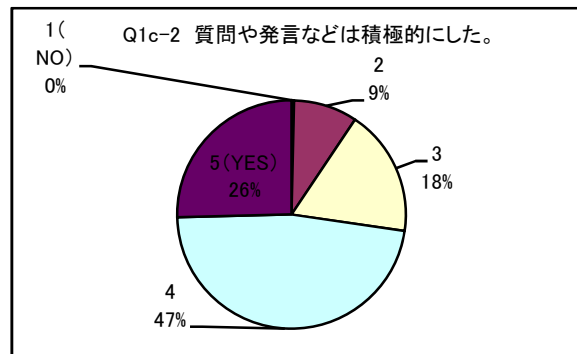
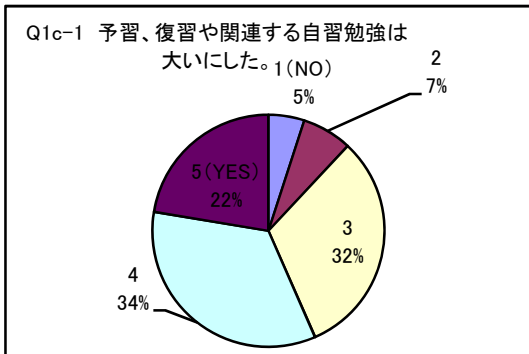
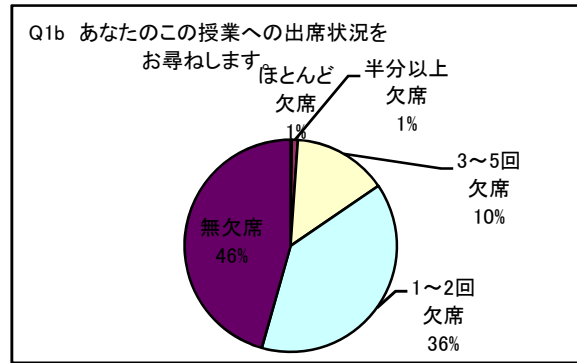
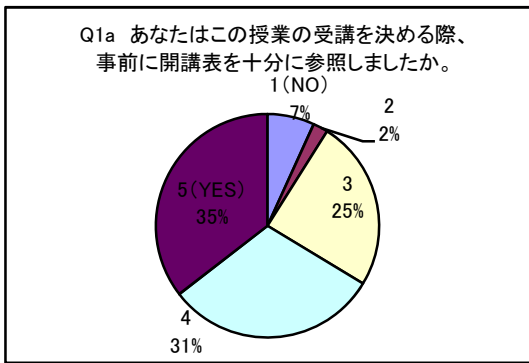


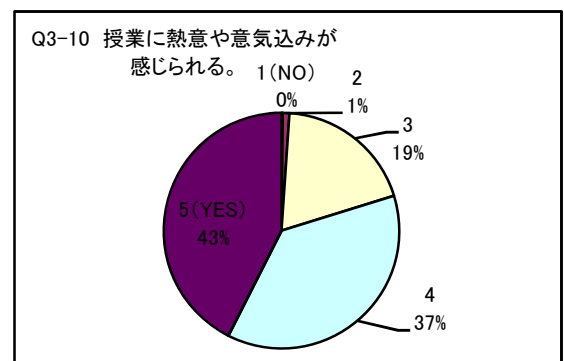
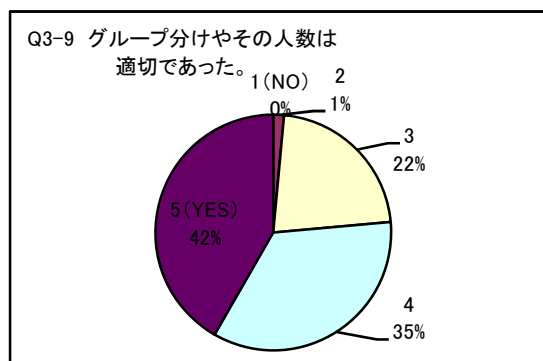
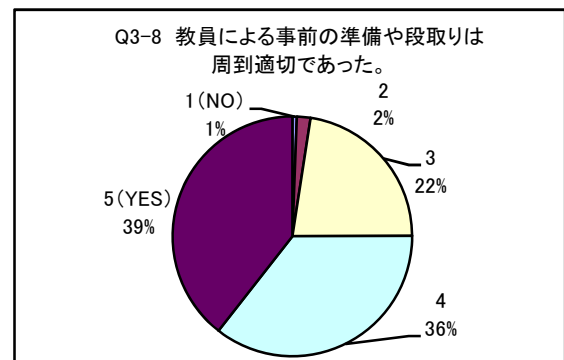
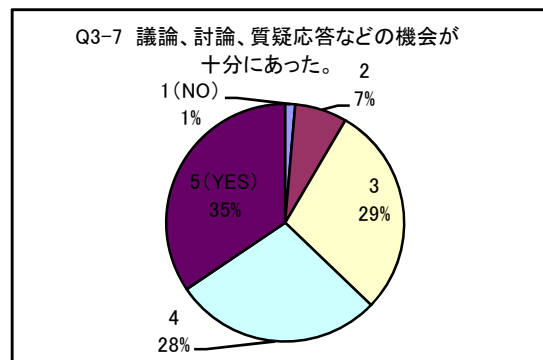
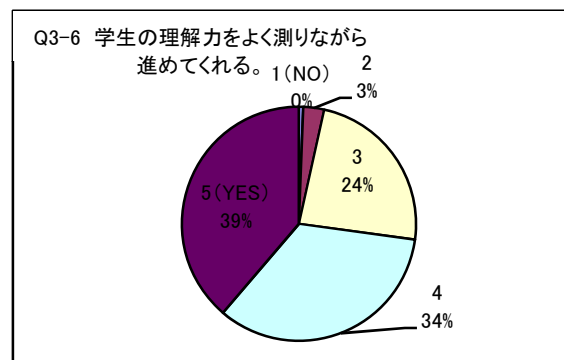
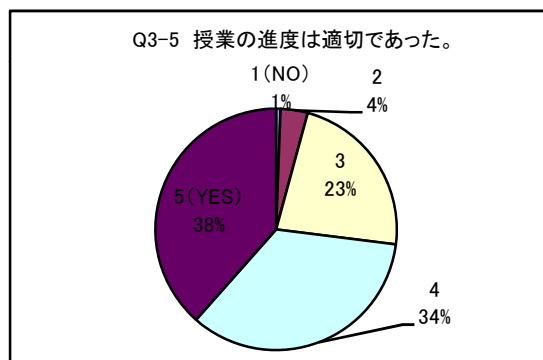
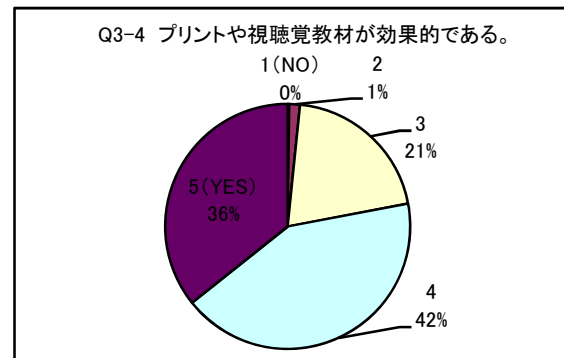
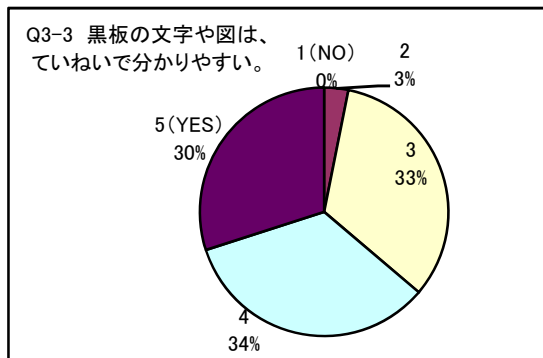
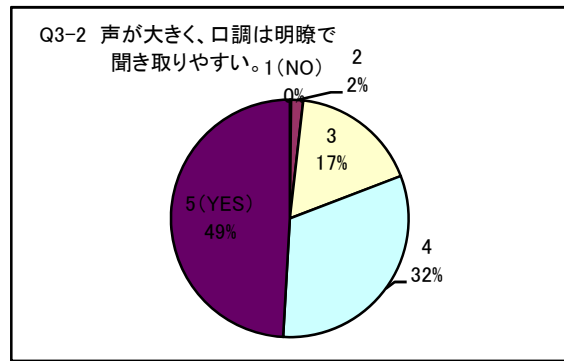
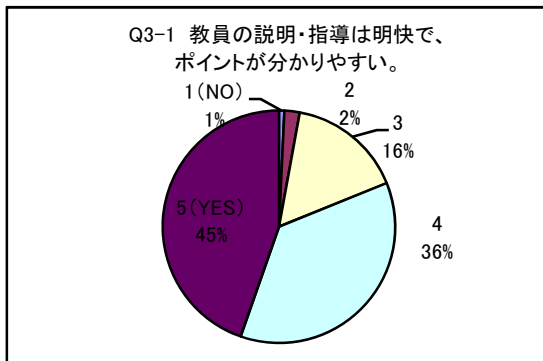


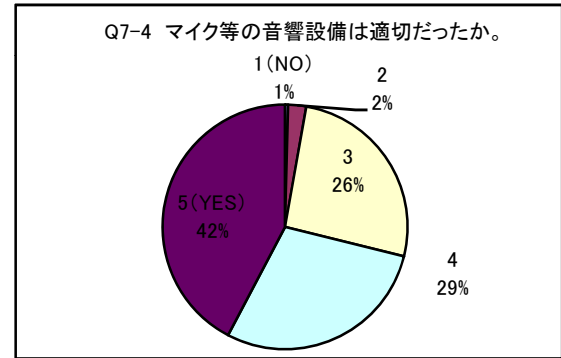
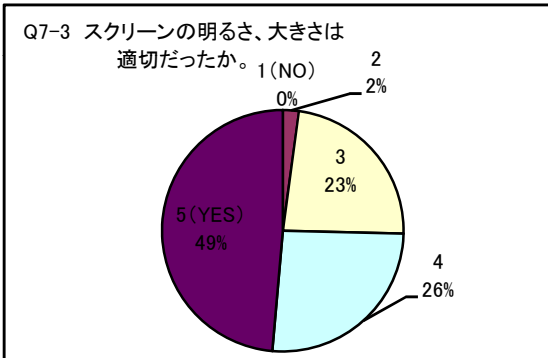
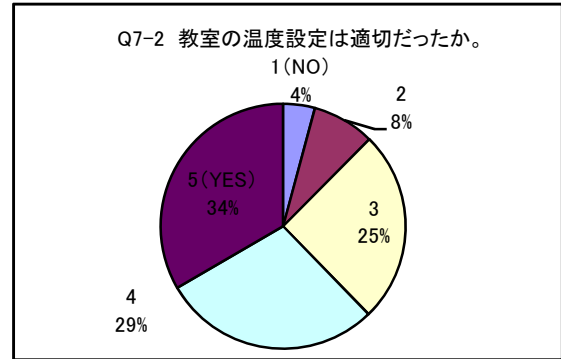
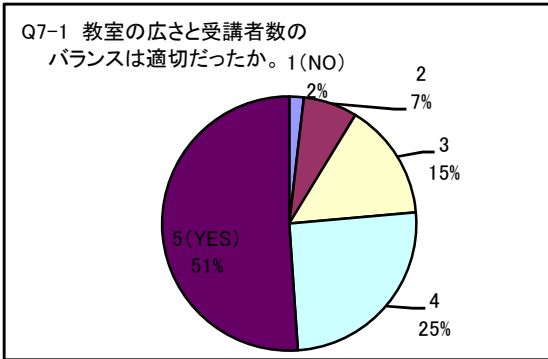
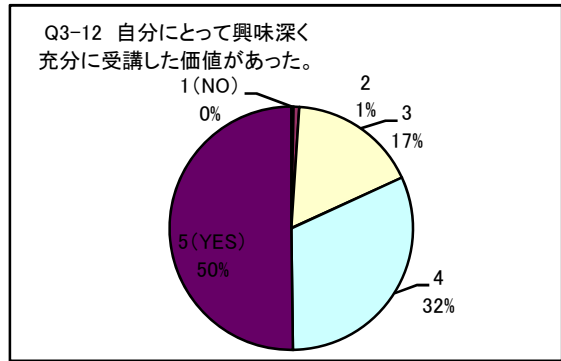
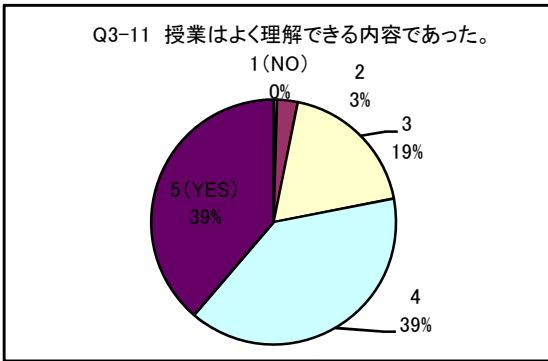


(参考)	実施科目(クラス)数	135
	回答数	5153

2009年度後期 学生による授業評価 選択式回答の分布(実験・実習・演習・講読科目計)

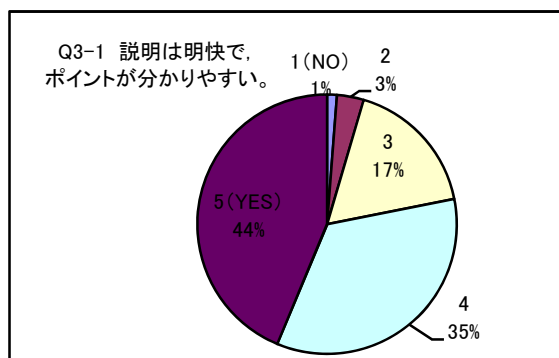
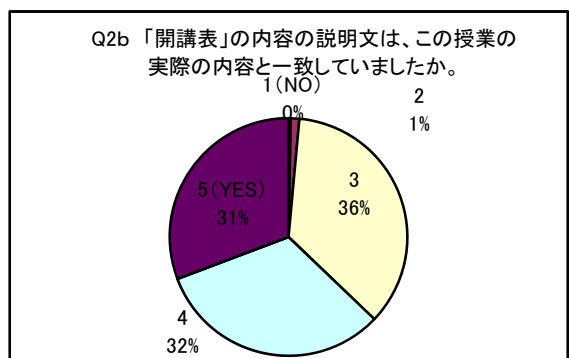
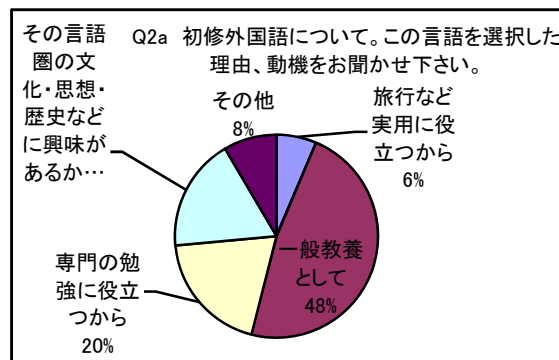
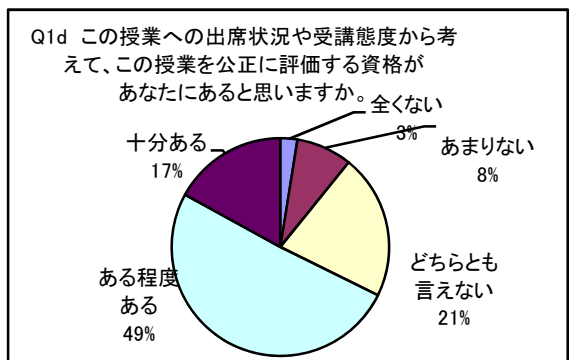
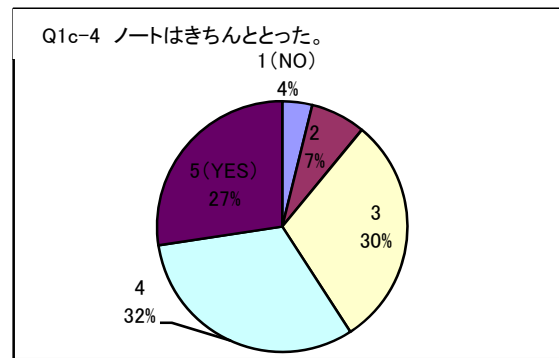
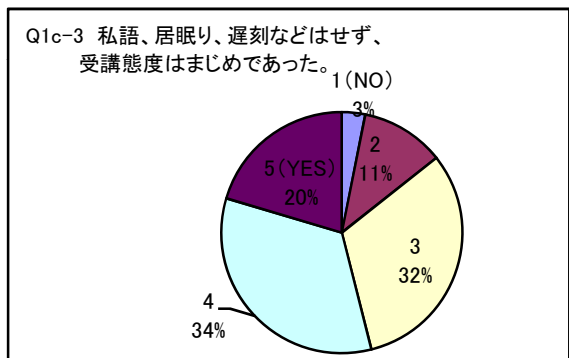
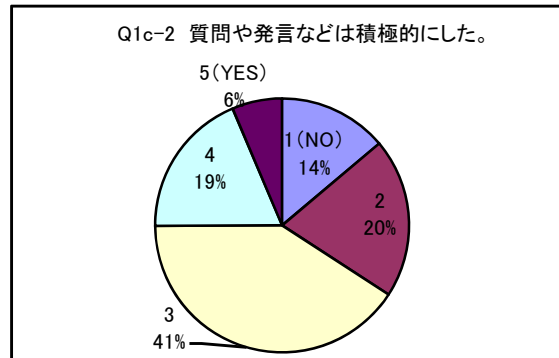
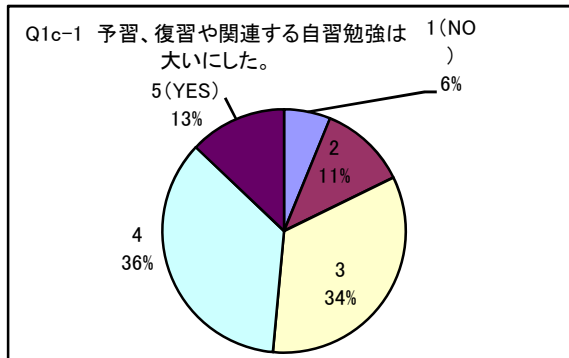
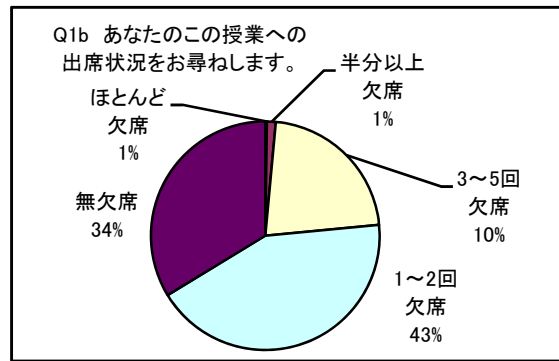
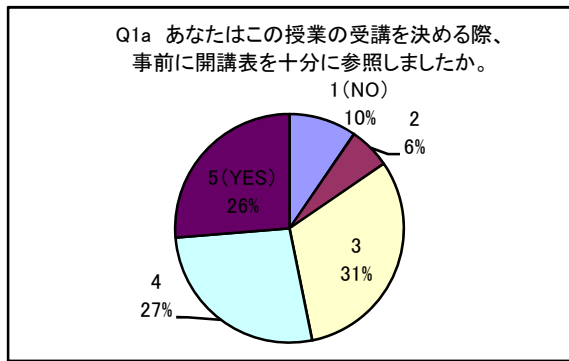


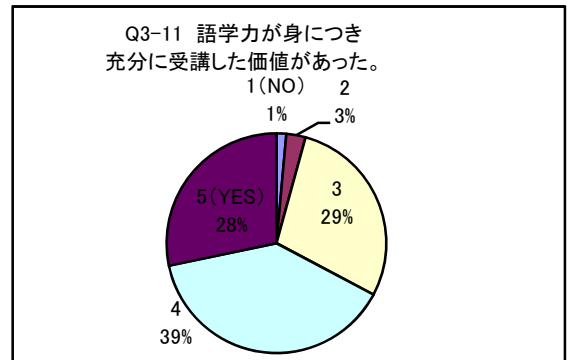
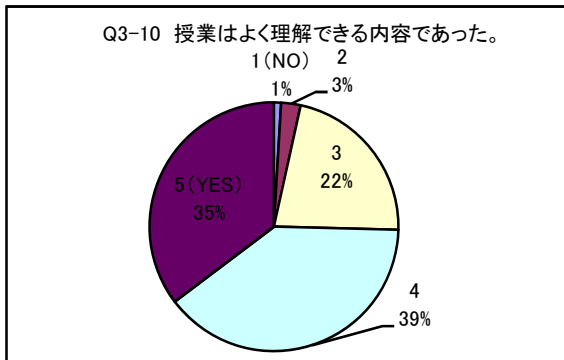
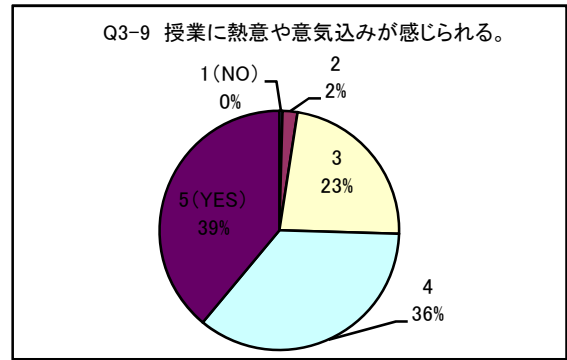
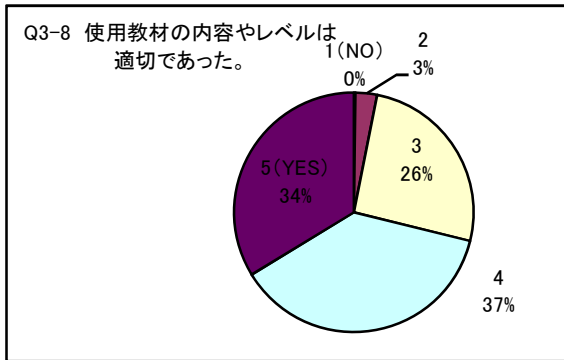
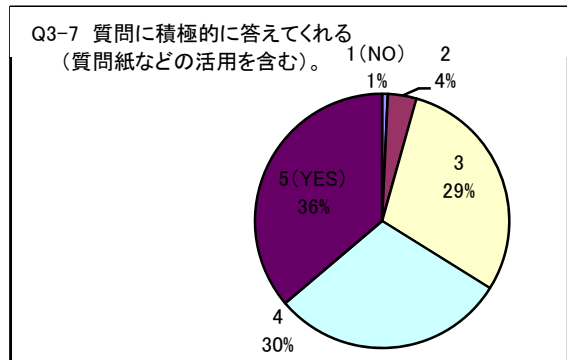
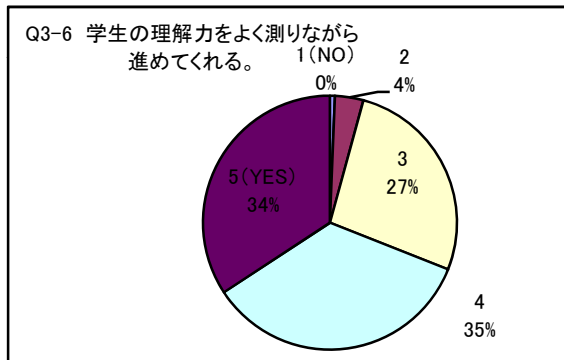
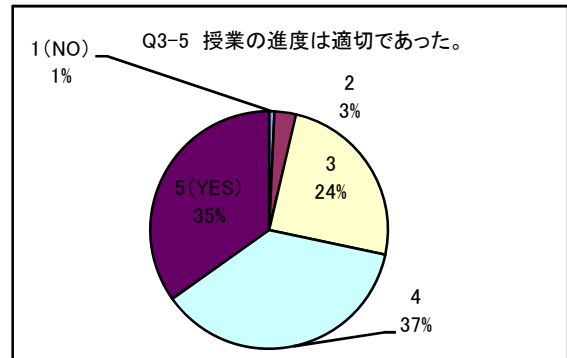
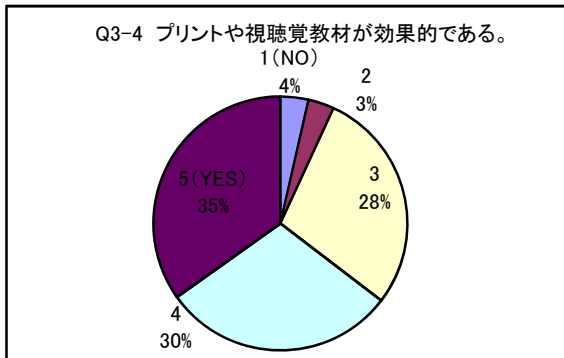
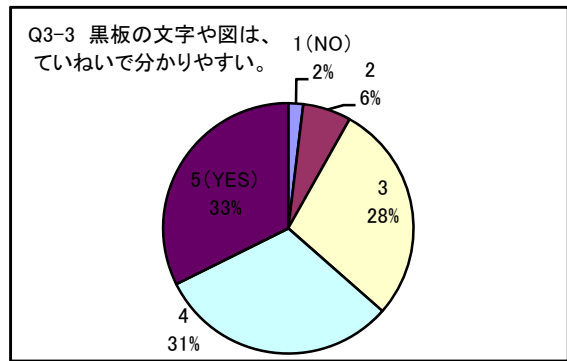
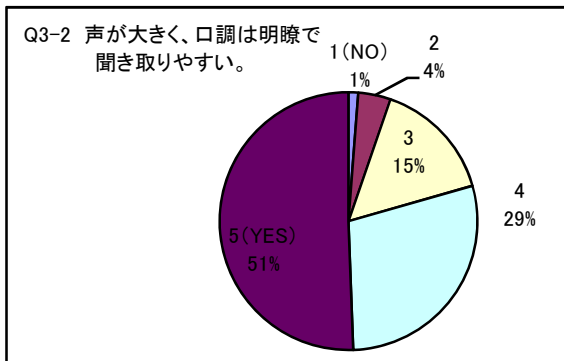


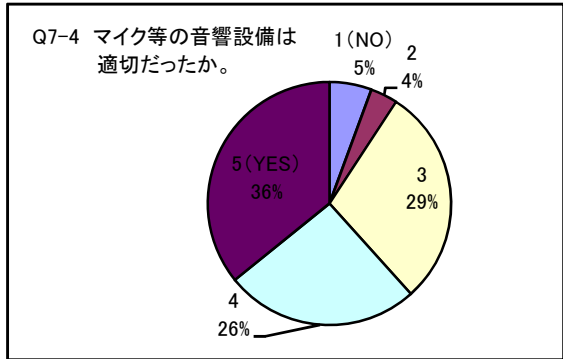
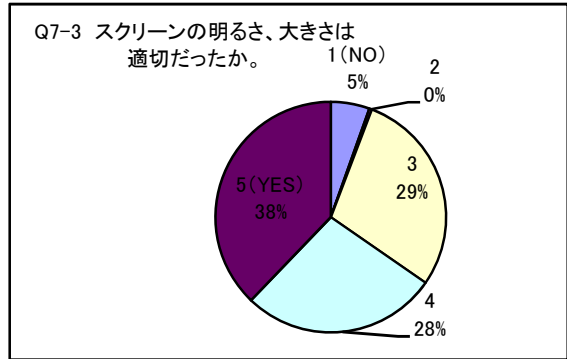
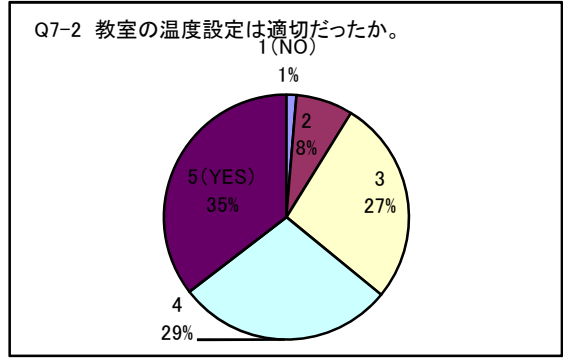
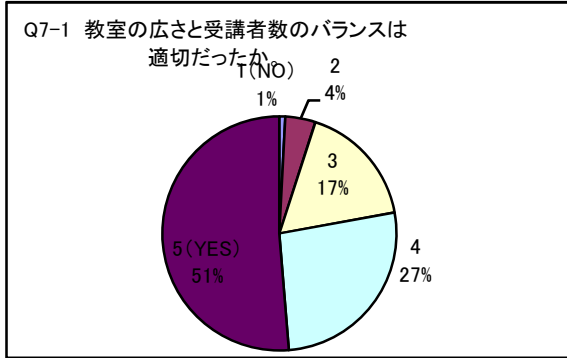


(参考)	実施科目(クラス)数	35
	回答数	663

2009年度後期 学生による授業評価 選択式回答の分布(外国語科目計)







	5/5	

参 考 资 料

○京都府立大学 学生による授業評価実施要領

教務部委員会

(趣旨)

第1 学生による授業評価(以下「授業評価」という。)は、本学における授業(講義・演習・実習・講読)を学生の立場から評価し、その意見集約の結果に基づき、個々の教員の授業方法や指導法について、学部及び教養教育センターを単位に議論し改善することを目的に実施する。この要領は、これに必要な事項を定めるものとする。

(対象とする授業)

第2 授業評価は、教養教育科目と、卒業研究に関する演習や実験等を除く専門教育科目の授業を対象とする。

(実施主体)

第3 授業評価は、学部及び教養教育センターを実施主体とする。

(授業評価の方法)

第4 授業評価は、1 Semesterごとに、教員1人につき1科目とする。

(アンケートの種類)

第5 授業評価の調査票は、1) 講義科目用 2) 外国語科目用 3) 実験・実習・演習・講読科目用、の3種とする。

(調査の実施方法)

第6 授業の担当教員は、授業の最終日にアンケート調査を実施し、調査票を回収の上学務課教務担当に提出する。

(調査票の集計)

第7 学務課教務担当は、担当教員から提出された調査票を集計(業者へ業務委託するものとする。)し、集計結果を各担当教員に配布する。

(個別報告書の作成)

第 8 担当教員は、集計結果を検討し、改善の具体策をまとめ、個別報告書を作成する。担当教員は、個別報告書を集計結果とともに学科・専攻及び教養教育センター分野別小委員会（以下「学科等」という。）に提出する。

(学科等の役割)

第 9 学科等は、評価対象科目ごとに、集計結果と個別報告書に基づき、原案における授業改善策が適切か否かを検討し、必要に応じて原案に修正を加え、個別報告書の内容を確定する。

2 学科・専攻主任及び教養教育センター分野別小委員長（以下「主任等」という。）は、学科等での論議の結果に基づいて、学科等報告書を作成し、個別報告書とともに所属する学部・研究科長又は教養教育センター長（以下、「学部長等」という。）に提出する。

3 主任等は、学部長等の承認を受けた後、各個別報告書の項目 {1 (a) (b) (c) 及び 2} を、京都府立大学 HP（学内専用）に掲載し公開する。

(学部長等の役割)

第 10 学部長等は、提出された個別報告書及び学科等報告書について、必要に応じて教授会に報告するとともに、教務部委員会 F D 部会に提出する。

(教務部委員会 F D 部会の役割)

第 11 教務部委員会 F D 部会は、各学部長等から提出された学科等報告書を検討し、全学報告書を作成する。

2 教務部委員会 F D 部会は、教育研究評議会の承認を経て全学報告書を京都府立大学 HP（アクセスフリー）に掲載し、公開する。

3 教務部委員会 F D 部会は、必要に応じて、全学にわたる授業評価の集計結果及び個別報告書を閲覧することができる。

附 則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

○学生による意見調査 調査票（講義科目用）

この調査は、みなさんがこの授業に対してどのような意見を抱いているかを知り、今後の授業の内容や方法を改善するための資料を得るために実施するものです。成績評価には一切関係がありませんので、思った通りに回答して下さい。

授業科目名 ()

※ あなたが所属する学科に○印をつけてください。

- 1 文学科 2 日本・中国文学科 3 欧米言語文化学科 4 史学科 5 歴史学科
 6 国際文化学科 7 公共政策学科 8 福祉社会学科 9 生物資源化学科 10 生命分子化学科
 11 生物生産科学科 12 農学生命科学科 13 食保健学科 14 環境情報学科 15 環境・情報科学科
 16 環境デザイン学科 17 森林科学科 18 その他（単位互換、科目等履修、研究生、大学院生など）

〔学生の自己評価〕

1 (a) あなたはこの授業の受講を決める際、事前の開講表を十分に参照しましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

Yes		⇔		No
5	4	3	2	1

(b) あなたのこの授業への出席状況をお尋ねします。該当する数字に ○ 印をつけてください。
 5（無欠席） 4（1～2回欠席） 3（3～5回欠席） 2（半分以上欠席） 1（ほとんど欠席）

(c) あなたはこの授業にどのような態度で臨みましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

	Yes		⇔		No
① 予習，復習や関連する自習勉強は大いにした。	5	4	3	2	1
② 質問や発言などは積極的にした。	5	4	3	2	1
③ 私語，居眠り，遅刻などはせず， 受講態度はまじめであった。	5	4	3	2	1
④ ノートはきちんととった。	5	4	3	2	1

(d) この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。該当する数字に ○ 印をつけてください。
 5（十分ある） 4（ある程度ある） 3（どちらとも言えない） 2（あまりない） 1（全くない）

(e) この授業の受講に際し、自分自身に対する反省点があれば、自由に書いてください。

〔学生による授業評価〕

2 (a) あなたはどのような理由でこの授業を受講しましたか。次の中から一つだけ選んで答えて下さい。

- 5（内容に興味を持ったから） 4（専門の勉強に役立つから） 3（一般教養として）
 2（卒業・資格取得のため必修だから） 1（時間割が空いていたから）
 0（その他 ）

(b) この授業の目的はどの程度達成されましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

- 5（十分達成された） 4（達成された） 3（ふつう）
 2（あまり達成されなかった） 1（全く達成されなかった）

(c) 「開講表」の内容の説明文はこの授業の実際の内容と一致していましたか？該当する数字に○ 印をつけてください。

Yes		⇔		No
5	4	3	2	1

(d) この授業に関して「開講表」の記載内容に対するあなたの要望や不満があれば聞かせてください。

3 この授業を受講してどのように感じましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。なお複数教員によるリレー式講義の場合には担当教員全体の平均値で回答し、個別に指摘事項がある場合には6の欄でお書き下さい。また、③・④について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

	Yes	⇔			No	
① 教員の説明・指導は明快で、ポイントが分かりやすい。 . . .	5	4	3	2	1	
② 声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	5	4	3	2	1	
③ 黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	5	4	3	2	1	該当せず
④ プリントや視聴覚教材が効果的である。	5	4	3	2	1	該当せず
⑤ 授業の進度は適切であった。	5	4	3	2	1	
⑥ 学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	5	4	3	2	1	
⑦ 質問に積極的に答えてくれる（質問紙などの活用を含む） .	5	4	3	2	1	
⑧ 計画的で筋道だった授業であった。	5	4	3	2	1	
⑨ 授業に熱意や意気込みが感じられる。	5	4	3	2	1	
⑩ 授業はよく理解できる内容であった。	5	4	3	2	1	
⑪ 自分にとって興味深く充分に受講した価値があった。 . .	5	4	3	2	1	

4 3の質問項目についてさらにお尋ねします。

(a) 3⑤で「2」または「1」を選択した方は、「進度が速すぎる」「進度がおそすぎる」等、その理由を具体的にお答え下さい。

(b) 3⑪で「2」または「1」を選択した方は、なぜそう思うのか、理由をお答え下さい。

5 この授業の開始時刻、終了時刻や休講や補講に関するあなたの意見を聴かせてください。

6 この授業に対する感想、要望など自由に書いてください。

〔施設・設備・機器などに対する評価〕

7 この授業が行われた教室・設備について、答えてください。該当する数字に ○ 印をつけてください。なお、③・④について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

この授業が行われた教室は。 (講義室)

	Yes	⇔			No	
① 教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。 . . .	5	4	3	2	1	
② 教室の温度設定は適切だったか。	5	4	3	2	1	
③ スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	5	4	3	2	1	該当せず
④ マイク等の音響設備は適切だったか。	5	4	3	2	1	該当せず

⑤ その他、教室の施設・設備などについて、要望や不満を聞かせてください。できるだけ、このように改善すべきだという具体的な提案をお願いします。

3 この授業を受講してどのように感じましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。なお、③・④について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

	Yes	⇔		No	
① 説明は明快で、ポイントが分かりやすい。	5	4	3	2	1
② 声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	5	4	3	2	1
③ 黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	5	4	3	2	1 該当せず
④ プリントや視聴覚教材が効果的である。	5	4	3	2	1 該当せず
⑤ 授業の進度は適切であった。	5	4	3	2	1
⑥ 学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	5	4	3	2	1
⑦ 質問に積極的に答えてくれる（質問紙などの活用を含む） .	5	4	3	2	1
⑧ 使用教材の内容やレベルは適切であった。	5	4	3	2	1
⑨ 授業に熱意や意気込みが感じられる。	5	4	3	2	1
⑩ 授業はよく理解できる内容であった。	5	4	3	2	1
⑪ 語学力が身につけ十分に受講した価値があった。	5	4	3	2	1

4 3の質問項目についてさらにお尋ねします。

(a) 3⑤で「2」または「1」を選択した方は、「進度が速すぎる」「進度がおそすぎる」等、その理由を具体的にお答え下さい。

(b) 3⑧で「2」または「1」を選択した方は、「難しすぎた」「易しすぎた」等、その理由を具体的にお答え下さい。

(c) 3⑪で「2」または「1」を選択した方は、なぜそう思うのか、理由をお答え下さい。

5 この授業の開始時刻、終了時刻や休講や補講に関するあなたの意見を聴かせてください。

6 この授業に対する感想、要望など自由に書いてください。

〔施設・設備・機器などに対する評価〕

7 この授業が行われた教室・設備について、答えてください。該当する数字に ○ 印をつけてください。なお、③・④について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

この授業が行われた教室は。 (講義室)

	Yes	⇔		No	
① 教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。	5	4	3	2	1
② 教室の温度設定は適切だったか。	5	4	3	2	1
③ スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	5	4	3	2	1 該当せず
④ マイク等の音響設備は適切だったか。	5	4	3	2	1 該当せず

⑤ その他、教室の施設・設備などについて、要望や不満を聞かせてください。できるだけ、このように改善すべきだという具体的な提案をお願いします。

○学生による意見調査 調査票（実験・実習・演習・講読科目用）

この調査は、みなさんがこの授業に対してどのような意見を抱いているかを知り、今後の授業の内容や方法を改善するための資料を得るために実施するものです。成績評価には一切関係がありませんので、思った通りに回答して下さい。

授業科目名（ ）

※ あなたが所属する学科に○印をつけてください。

- 1 文学科 2 日本・中国文学科 3 欧米言語文化学科 4 史学科 5 歴史学科
 6 国際文化学科 7 公共政策学科 8 福祉社会学科 9 生物資源化学科 10 生命分子化学科
 11 生物生産科学科 12 農学生命科学科 13 食保健学科 14 環境情報学科 15 環境・情報科学科
 16 環境デザイン学科 17 森林科学科 18 その他（単位互換、科目等履修、研究生、大学院生など）

〔学生の自己評価〕

1 (a) あなたはこの授業の受講を決める際、事前の開講表を十分に参照しましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

Yes		⇔	No	
5	4	3	2	1

(b) あなたのこの授業への出席状況をお尋ねします。該当する数字に ○ 印をつけてください。
 5（無欠席） 4（1～2回欠席） 3（3～5回欠席） 2（半分以上欠席） 1（ほとんど欠席）

(c) あなたはこの授業にどのような態度で臨みましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

	Yes	⇔	No		
① 予習，復習や関連する自習勉強は大いにした。	5	4	3	2	1
② 質問や発言などは積極的にした。	5	4	3	2	1
③ 私語，居眠り，遅刻などはせず， 受講態度はまじめであった。	5	4	3	2	1
④ ノートはきちんととった。	5	4	3	2	1

(d) この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。該当する数字に ○ 印をつけてください。
 5（十分ある） 4（ある程度ある） 3（どちらとも言えない） 2（あまりない） 1（全くない）

(e) この授業の受講に際し、自分自身に対する反省点があれば、自由に書いてください。

〔学生による授業評価〕

2 (a) あなたはどのような理由でこの授業を受講しましたか。次の中から一つだけ選んで答えて下さい。

- 5（内容に興味を持ったから） 4（専門の勉強に役立つから） 3（一般教養として）
 2（卒業・資格取得のため必修だから） 1（時間割が空いていたから）
 0（その他 ）

(b) この授業の目的はどの程度達成されましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。

- 5（十分達成された） 4（達成された） 3（ふつう）
 2（あまり達成されなかった） 1（全く達成されなかった）

(c) 「開講表」の内容の説明文はこの授業の実際の内容と一致していましたか？該当する数字に○ 印をつけてください。

Yes		⇔	No	
5	4	3	2	1

(d) この授業に関して「開講表」の記載内容に対するあなたの要望や不満があれば聞かせてください。

3 この授業を受講してどのように感じましたか。該当する数字に ○ 印をつけてください。
 なお、③・④・⑨について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

	Yes	⇔				No	
① 教員の説明・指導は明快で、ポイントが分かりやすい。 . . .	5	4	3	2	1		
② 声が大きく、口調は明瞭で聞き取りやすい。	5	4	3	2	1		
③ 黒板の文字や図は、ていねいで分かりやすい。	5	4	3	2	1	該当せず	
④ プリントや視聴覚教材が効果的である。	5	4	3	2	1	該当せず	
⑤ 授業の進度は適切であった。	5	4	3	2	1		
⑥ 学生の理解力をよく測りながら進めてくれる。	5	4	3	2	1		
⑦ 議論、討論、質疑応答などの機会が十分にあった。	5	4	3	2	1		
⑧ 教員による事前の準備や段取りは周到適切であった。	5	4	3	2	1		
⑨ グループ分けやその人数は適切であった。	5	4	3	2	1	該当せず	
⑩ 授業に熱意や意気込みが感じられる。	5	4	3	2	1		
⑪ 授業はよく理解できる内容であった。	5	4	3	2	1		
⑫ 自分にとって興味深く充分に受講した価値があった。 . . .	5	4	3	2	1		

4 3の質問項目についてさらにお尋ねします。

(a) 3⑤で「2」または「1」を選択した方は、「進度が速すぎる」「進度がおそすぎる」等、その理由を具体的にお答え下さい。

(b) 3⑨で「2」または「1」を選択した方は、その理由を具体的にお答え下さい。

(c) 3⑫で「2」または「1」を選択した方は、なぜそう思うのか、理由をお答え下さい。

5 この授業の開始時刻、終了時刻や休講や補講に関するあなたの意見を聴かせてください。

6 この授業に対する感想、要望など自由に書いてください。

〔施設・設備・機器などに対する評価〕

7 この授業が行われた教室・設備について、答えてください。該当する数字に ○ 印をつけてください。なお、③・④について該当しないと思われる場合は「該当せず」を選んでください。

この授業が行われた教室は。 (講義室)

	Yes	⇔				No	
① 教室の広さと受講者数のバランスは適切だったか。 . . .	5	4	3	2	1		
② 教室の温度設定は適切だったか。	5	4	3	2	1		
③ スクリーンの明るさ、大きさは適切だったか。	5	4	3	2	1	該当せず	
④ マイク等の音響設備は適切だったか。	5	4	3	2	1	該当せず	

⑤ その他、教室の施設・設備などについて、要望や不満を聞かせてください。できるだけ、このように改善すべきだという具体的な提案をお願いします。